議長缺員又ハ事故アリテ欠席スルトキハ之ヲ代理ス

議官　本院ノ章程ニ從ヒ諸議案ヲ議スルヲ掌ル

書記官　六人　議長ノ命ヲ受ケ各其主務ヲ幹理ス

書記生　上官ノ指揮ヲ受ケ各庶務ニ從事ス

○交際官及領事官制

勅令第五號　明治十九年三月十六日

第一條　交際官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使　勅任一等

辨理公使　勅任二等

代理公使　奏任一等

公使館參事官　奏任一等

公使館書記官　奏任二等三等四等

交際官試補　奏任五等六等

第二條　各公使館ニ書記生ヲ置ク判任トス專ラ公使館會計ノ事務ニ從事セシム

第三條　交際官ノ未タ任所ヲ命セラレサルモノハ無任所外交官トシ外務省ニ出仕シ外務大臣ノ指命スル所ニ就キ省務ニ從事ス

無任所外交官ハ公使五人參事官書記官交際官試補十六人ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條　領事ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

總領事　奏任一等

領事　奏任二等三等四等
副領事　奏任五等六等
領事館書記生　判任

第五條　領事ヲ置カサルノ地ニ於テハ便宜貿易事務官ヲ置クコトヲ得

貿易事務官ハ奏任三等以下トス

○造幣局印刷局官制（勅令第十七號明治十九年四月十五日）

第一條　造幣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣鑄造ノ事ヲ掌ル

第二條　造幣局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長
事務次長

技術官
屬

第三條　事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條　事務次長ハ一人奏任トシ現任事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク

第五條　技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス

第七條　造幣局ニ總務部會計部第一部第二部第三部第四部及第五部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

印刷局官制

第一條　印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ諸印刷抄紙ノ事ヲ掌ル

第二條　印刷局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

事務次長

技術官

屬

第三條　事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條　事務次長ハ一人奏任トシ現任事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク

第五條　技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス

第七條　印刷局ニ總務部會計部印刷部及抄紙部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシ

○稅關官制

勅令第七號明治十九年三月廿五日

第一條　各稅關ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

稅關長

稅關副長

屬

監吏

鑒定吏

第二條　稅關長ハ奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ海關稅及諸收入ノ事ヲ掌理ス

稅關長ハ其主務ニ就キ關稅局長ト協辨スルコトアルヘシ

第三條　稅關副長ハ奏任トス橫濱神戶ノ兩稅關ニ限リ之ヲ置ク

稅關副長ハ稅關長ノ事務ヲ佐ク稅關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第四條　屬ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ

第五條　監吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ密商脫稅

監視ノ事ニ從フ

監吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條　鑒定吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物鑒定ノ事ニ從フ

鑒定吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七條　各稅關ニ檢査課鑒定課收稅課倉庫課監視課文書課製表課及會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第八條　檢査課ハ輸出入貨物ノ檢査ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第九條　鑒定課ハ輸出入貨物ノ性質價直其他鑒定ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十條　收稅課ハ輸出入貨物ノ稅金及船舶倉庫等ノ諸收入金收納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十一條　倉庫課ハ倉庫上屋ヲ管守シ其開閉及貨物ノ出納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十二條　監視課ハ密商脫稅監視ノ事ヲ掌ル

第十三條　文書課ハ內外諸文書及職員ノ取扱免狀證書等捺印ノ事ヲ掌ル

第十四條　製表課ハ貿易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

第十五條　會計課ハ關稅諸收入及經費ノ豫算決算並經費ノ出納買上品官沒品ノ取扱財產ノ管守其他諸傭人ノ身分ニ關スル事ヲ掌ル

○地方遞信官々制

勅令第八號　明治十九年三月廿五日

第一條　地方郵便電信ノ事務ヲ管理スル爲ニ須要ノ地方ニ遞信管理局ヲ置キ遞信大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條　各遞信管理局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

遞信管理局長

遞信管理局次長

遞信監察官

遞信監察官補

第三條　遞信管理局長ハ奏任三等四等五等トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ地方遞信ノ事務ヲ管理ス

第四條　遞信管理局次長ハ奏任現任局長ノ次等以下トス遞信管理局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ遞信大臣ノ命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス

第五條　遞信監察官ハ奏任四等以下トス局長ノ命ヲ承ケ遞信事務監察ノ事ヲ掌ル

第六條　遞信監察官補ハ判任トス遞信監察官ノ事務ヲ佐ク

第七條　地方郵便電信ノ事務ヲ掌理スル爲ニ郵便局及電信分局ヲ置キ遞信管理局ノ管理ニ屬セシム

郵便局ノ等級ヲ分チテ一等二等及三等トス又電信分局ノ等級ヲ分チテ一等二等及三等トス

第八條　郵便局及電信分局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

郵便局長

郵便書記

電信分局長

電信書記

第九條　一等郵便局ノ局長ハ奏任四等以下トス二等郵便局及三等郵便局ノ局長ハ判任トス遞信管理局長ノ

指揮命令ヲ承ケ成規ニ從ヒ其局務ヲ掌理ス

第十條　郵便書記ハ判任トス郵便事務ニ從事シ郵便局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

郵便書記ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十一條　一等電信分局ノ局長ハ奏任四等以下トス二等電信分局及三等電信分局ノ局長ハ判任トス遞信管理局長ノ指揮命令ヲ承ケ成規ニ從ヒ其局務ヲ掌理ス

第十二條　電信書記ハ判任トス電信事務ニ從事シ電信分局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

電信書記ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

○商船學校電信修技學校官制

勅令第十九號　明治十九年四月十六日

第一條　商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海運用機

關ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條　商船學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條　校長ハ一人奏任二等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條　幹事ハ一人奏任三等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條　教授ハ三人奏任三等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條　助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第七條　書記ハ判任トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

電信修技學校官制

第一條　電信修技學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ電機通信ノ技術ヲ教授スル所トス

第二條　電信修技學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教諭

第三條　校長ハ一人奏任三等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條　幹事ハ判任トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條　教諭ハ判任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

○高等師範學校高等中學校東京商業學校官制

勅令第三十五號

明治十九年四月二十九日

第一條　高等師範學校高等中學校東京商業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

高等師範學校ハ勅任二等又ハ奏任一等二等高等中學校東京商業學校ハ奏任自一等至三等

教頭　奏任自一等至四等

教諭　奏任自四等至六等

幹事　奏任自四等至六等

助教諭　判任

舍監　判任

訓導　判任

高等師範學校ニ限リ之ヲ置ク

書記　判任

第二條　學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所属職員ヲ統督ス

第三條　教頭ハ教諭ヨリ之ニ兼任ス

教頭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第四條　幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第五條　教諭助教諭訓導ノ員數ハ其學科ノ輕重及生徒

ノ員數ニ應シテ之ヲ定ム

○尋常師範學校官制

勅令第六十五號
明治十九年十月六日

第一條　尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教頭
教諭
助教諭
幹事
舍監
訓導
書記

第二條　學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教

頭以下ノ職員ヲ統督ス但學校長ヲ置カサルトキハ學校長補ヲ置キ學校長ノ職務ヲ掌ラシム

第三條　教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任シ學校長ノ監督ニ屬シ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第四條　教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教授ノ事ヲ掌ル

第五條　助教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條　幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第七條　舍監ハ學校長及幹事ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　訓導ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ附屬小學校生徒教授ノ事ヲ掌リ兼テ師範生徒實地練習ノ事ヲ助

ク

第九條　書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　教諭助教諭訓導ノ員數ハ學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ應シテ之ヲ定ム

第十一條　學校長及教頭ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ學校長補以下ハ判任ノ待遇ヲ受ク但尋常師範學校職員ハ勅令第六號高等官々等俸給令及明治十七年太政官達恩給令ノ限ニアラス

○東京農林學校官制

勅令第五十六號　明治十九年七月二十二日

第一條　東京農林學校ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ農業獸醫及森林ニ關スル諸學術ヲ教授スル所トス

第二條　東京農林學校ノ各專門學科ヲ卒ヘ定規ノ試驗ヲ經タル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條　東京農林學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長
幹事
教授
助教
助教補
訓導
舍監
書記

第四條　校長ハ一人奏任一等以下トシ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京農林學校ヲ總轄ス其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、東京農林學校ノ秩序ヲ保持スル事

二、東京農林學校ノ狀況ヲ監察シ改良ノ必要ヲ認ムルノ事項アルトキハ案ヲ具ヘテ農商務大臣ニ提出スル事

第五條　幹事ハ一人奏任トシ現任校長ノ次等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第六條　教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

教授ノ人員ハ生徒ノ員數及學科ニ應シテ別ニ農商務大臣ノ定ムル所ニ據ル

第七條　助教ハ判任トス職掌教授ニ亞ク

第八條　助教補ハ判任トス教授及助教ノ職掌ヲ佐ク

第九條　訓導ハ判任トス實業ヲ教ニルコトヲ掌ル

第十條　舍監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒及校舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ會計及庶務ニ從事ス

○裁判所官制（勅令第四十号 明治十九年五月四日）

第一　職員

第一條　本令中裁判所トアルハ治安裁判所始審裁判所重罪裁判所控訴院大審院及高等法院ヲ總稱ス

裁判官トアルハ裁判所ノ長局長評定官判事及判事試補ヲ總稱シ檢察官トアルハ檢事長檢事及檢事試補ヲ總稱ス

第二條　治安裁判所始審裁判所控訴院大審院ニ左ノ職

員ヲ置ク

治安裁判所判事	一人	奏任五等
判事試補	若干員	
検事試補	一人	
勸解吏	一人	判任
書記		判任
始審裁判所長	一人	奏任一等乃至四等
判事	若干員	奏任（現任長ノ次等以下五等ニ至ル）
判事試補	若干員	
検事	若干員	奏任二等乃至五等
検事試補	若干員	

書記		判任
控訴院長	一人	勅任一等又ハ二等
評定官	若干員	奏任一等乃至四等
検事長	一人	奏任一等
東京控訴院ニ限リ勅任二等ノ評定官及検事長ヲ置クコトヲ得		
検事	若干員	奏任二等乃至四等
書記官	一人	奏任四等
書記		判任
大審院長	一人	勅任
局長	三人	勅任二等

評定官　若干員　勅任二等又ハ奏任一等乃至二等

檢事長　一人　勅任二等

檢事　若干員　奏任一等又ハ二等

書記官　一人　奏任四等

書記　判任

第三條　第十七條ニ指定スル局長勅任ノ評定官ヲ以テ之ニ充ツルノ外ハ奏任一等ノ評定官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　重罪裁判所及高等法院ノ職員ハ治罪法ノ定ムル所ニ依ル

第五條　裁判所ノ職員中定員ヲ限ラサルモノハ判任官ヲ除クノ外事務ノ繁簡ニ應シ司法大臣ノ閣議ヲ經テ定ムル所ニ依ル

第六條　試補ノ規則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　治安裁判所管轄區域内ニ執行吏ヲ置ク判任トス

第八條　裁判官及檢察官トナルノ資格ハ別ニ試驗法ノ定ムル所ニ依ル

第九條　刑法第二編第四章第一節乃至第六節第九章第二節第二百八十四條乃至第二百八十七條第三編第二章第一節乃至第六節ニ揭クル重輕罪ヲ犯シテ有罪ナリトノ言渡ヲ受ケ其言渡ノ確定シタルモノハ裁判官及檢察官タルコトヲ得ス

第十條　大審院長局長評定官控訴院長檢事長及始審裁判所ノ長ヲ除クノ外裁判官及檢察官ノ任所ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　新ニ裁判官ニ任セラルヽモノハ治安裁判所

ニ於テ其職務ニ服シ治安裁判所裁判官又ハ檢察官ニシテ一年以上其職務ニ服シタルモノハ始審裁判所裁判官ニ任スルコトヲ得

裁判官檢察官ニシテ五年以上其職務ニ服シタルモノハ控訴院裁判官ニ任スルコトヲ得

裁判官檢察官ニシテ十年以上其職務ニ服シタルモノハ大審院裁判官ニ任スルコトヲ得

第十二條　裁判官ハ刑事裁判又ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其意ニ反シテ退官及懲罰ヲ受クルコトナシ

第二　分課及職務

第十三條　裁判所ノ權限及裁判官ノ所掌ハ訴訟法治罪法及其他法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條　治安裁判所裁判官ノ分課ハ訴訟事件ノ種類

又ハ土地ノ區域ニ從ヒ一周年毎ニ所轄始審裁判所長ノ定ムル所ニ依ル但治安裁判所ノ便宜ニ依リ其管轄ノ區域内ニ於テ臨時分課外ノ職務ヲ行フコトアルヘシ

第十五條　治安裁判所裁判官ハ司法大臣ノ命ニ依リ其裁判所々在地外ニ於テ期日ヲ定メ法廷ヲ開クコトアルヘシ

第十六條　始審裁判所裁判官ノ分課ハ一周年毎ニ始審裁判所長ノ上申ニ依リ訴訟事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ所轄控訴院長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條　控訴院ハ民事刑事ノ類別ニ依リ須要ニ從ヒ數局ヲ置ク各局中ノ分課ハ一周年毎ニ控訴院長ノ上申ニ從ヒ事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ大審院長

ノ定ムル所ニ依ル局長及局員ヲ定限スルモ亦同シ但控訴院長ヲシテ院中一局ノ長ヲ兼ネシメ自餘ノ局長ハ遞次上席ノ評定官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第十八條　第十六條第十七條ニ指定シタル分課ハ其分掌ノ偏重ナルトキ又ハ其主任ニ缺員若クハ引續キ差支アルトキニアラサレハ定期間之ヲ變更スルコトヲ得ス但前年ニ審理ヲ始メ未タ終結セサル事件ハ從來ノ主任裁判官ヲシテ終結セシムルコトヲ得

第十九條　大審院ニ民事第一局民事第二局及刑事第一局刑事第二局ヲ置ク民事第一局ハ上告事件ノ受理不受理ヲ審判シ民事第二局ハ受理シタル事件ヲ審判シ刑事第一局ハ刑法ニ關スル上告事件ヲ審判シ刑事第二局ハ諸罰則ニ係ル上告事件ヲ審判ス

民事第二局ノ長ハ大審院長ヲシテ之ヲ兼ネシメ評定官ハ司法大臣ノ上奏ニ依リ其各局分任ヲ命ス

第二十條　治安裁判所裁判官差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキモノハ一周年毎ニ所轄始審裁判所長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其裁判所ニ於テ代理スルモノナキトキハ最近ノ治安裁判所裁判官ヲシテ代理セシム

第二十一條　始審裁判所長差支アルトキハ上席ノ判事之ヲ代理ス

判事中差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ裁判所長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其裁判所ノ判事中代理スルモノナキトキハ所轄治安裁判所ノ裁判官ヲシテ臨時代理セシム

第二十二條　控訴院長差支アルトキハ上席評定官之ヲ

代理ス

評定官中差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ院長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其院ノ評定官中代理スルモノナキトキハ所轄始審裁判所裁判官ヲシテ代理セシム

第二十三條　大審院長差支アルトキハ上席ノ局長之ヲ代理ス

局長中差支アルトキハ其局上席ノ評定官之ヲ代理ス

各局評定官中其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ院長ノ豫メ定ムル所ニ依ル

第二十四條　治安裁判所判事始審裁判所長控訴院長及大審院長ハ司法大臣ノ指揮ヲ承ケ其廳務ヲ整理シ及司法ニ關スル行政ヲ掌理ス

第二十五條　大審院長ハ其院及控訴院ヲ監督シ控訴院長ハ其院及所轄裁判所ヲ監督シ始審裁判所長ハ其裁判所及所轄治安裁判所ヲ監督ス

第二十六條　控訴院及大審院ノ局長ハ其局ノ所掌ニ屬スル裁判事務ヲ指揮ス

第二十七條　治安裁判所ヲ除クノ外裁判所ニ檢事局ヲ置キ檢察官ヲシテ治罪法及訴訟法ニ定ムル職務ノ外司法ニ關スル事項及司法ノ行政ニ關スル事項ニ付監督ノ職務ヲ行ハシム其處務ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

治安裁判所ニ於テハ別ニ檢事局ヲ置カス檢事試補ヲシテ其所轄ニ屬スル檢察事務ヲ掌ラシム但檢事試補ヲ置サルノ治安裁判所ニ於テハ警察官郡區長戸長ヲ

シテ檢察事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條　各檢事局ノ管轄ハ其所在裁判所ノ管轄區域ニ依ル

第二十九條　檢察官ハ其職務上其所在裁判所ニ從屬セサルモノトス

第三十條　檢察官ニハ裁判官ノ職務ヲ行ハシムヘカラス又其職務ヲ監督セシムヘカラス

第三十一條　檢察官差支アリテ止ムヲ得サル場合ニ於テハ裁判所長ハ司法大臣ノ認可ヲ承ケテ裁判官中ヨリ臨時代理ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條　大審院檢事長ハ所屬檢事及控訴院檢事長ヲ監督シ控訴院檢事長ハ所屬檢事及所轄內ノ檢事及司法警察官ヲ監督ス

第三十三條　檢察官ハ職務上其所屬長官ノ命令ニ服從スヘシ司法警察官ノ檢事ノ補助官トナリタルトキモ亦同シ

第三十四條　始審裁判所檢事局ニハ檢事長ヲ置カス上席檢事ヲ以テ之ニ充テ始審裁判所及其所轄內ニ在ル治安裁判所ノ檢察事務ヲ指揮シ其局所掌ノ事務ヲ掌理セシム

第三十五條　控訴院檢事長ハ其局所轄ノ事務ヲ掌理シ其局及其所轄ノ檢察官ヲ指揮ス

第三十六條　大審院檢事長ハ其局ノ檢事ヲ指揮シ及其局所轄ノ事務ヲ掌理ス

第三十七條　控訴院及大審院ノ書記官ハ書記ヲ指揮監督シテ文書記錄會計ノ事務ヲ掌ル

第三十八條　裁判所ノ書記ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ訴訟法治罪法及其他法律命令ノ定ムル所ニ依リ文書記錄會計ニ從事ス

始審裁判所以上ノ裁判所ニ於テハ檢事局ニ書記ヲ置ク其職務ハ前項ニ同シ

第三十九條　執行吏ハ治罪法訴訟法及其他法律命令ノ定ムル所ニ依リ文書ノ送達及判決命令ノ執行ヲ掌ル

第三　執務及休暇

第四十條　治安裁判所及始審裁判所ノ審理判決ハ裁判官一人ニテ之ヲ行ヒ控訴院ノ審理判決ハ主任局長ヲ合セテ裁判官三人大審院ノ審理判決ハ主任局長ヲ合セテ五人合議列席シテ之ヲ行フ

第四十一條　裁判ヲ爲スニハ前條ニ指定シタル主任裁判官ノ外列席スルコトヲ得ス但審問數日ニ渉ルヘキトキハ其裁判所中自餘ノ裁判官ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第四十二條　裁判所ノ會議及議決ハ之ヲ公行セス其狀況及結果ハ一切之ヲ漏洩スルコトヲ許サス

第四十三條　合議列席シテ審理判決ヲ行フ場合ニ於テハ主任局長其會議ノ長トナリテ議事ヲ整理シ訴件ノ要点ニ就テ問議ヲ提出シ列席員ヲシテ各意見ヲ述ヘシム其問議ノ事項及提出ノ方法順序又ハ決議ノ査定ニ關シ各員ノ間ニ異見ヲ生スルトキハ列席員ノ最多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第四十四條　決議ノ際各員異見ヲ述フルノ順序ハ各其任官ノ前後ニ依リ後任ノ裁判官ヨリ始メ局長ヲ最後

トス任官ノ同日ニ係ルトキハ年少ヨリ始ム但專任ヲ命シタル事件ニ關シテハ其專任裁判官ヨリ之ヲ始ム

第四十五條　凡ソ裁判ハ過半數ノ議決ニ依リ之ヲ行フ金額ニ關シ裁判官ノ意見三說以上ニ分レ其說各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ意見ニ合算ス

刑事ニ關シ有罪無罪ノ問議ヲ除クノ外其意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第四十六條　大審院ニ於テ裁判前例ニ違ヘル裁判ヲ爲サントスルトキ又ハ司法大臣ノ諮問ニ應シ司法制度ニ關スル意見ヲ提出セントスルトキハ總會議ヲ開ク

コトヲ得

總會議ハ院中ノ裁判官三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ開キ院長其會議ノ長トナリテ其議事ヲ整理シ其議決ハ最多數ニ依ル若シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十七條　治安裁判所及始審裁判所ハ裁判上ノ處分ニ關シ互ニ補助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第四十八條　檢察官其職務ヲ行フニ付必要ナル場合ニ於テハ互ニ補助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第四十九條　書記又ハ執行吏他ノ裁判所ノ管轄內ニ於テ其職務上ノ處分ヲ爲スノ必要ナル場合ニ於テハ互ニ補助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第五十條　裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十

日ニ終ル

第五十一條　休暇中ハ左ノ事件ニ限リ裁判ス

一、刑事

二、差押事件

三、身代限ニ關スル事件

四、家宅ノ貸渡使用明渡及借家人ノ借宅ニ現存スル物品引留ニ付家主ト借家人トノ間ニ生スル事件

五、爲換事件

六、養料ノ請求

七、既ニ著手シタル建築ノ繼續ニ關スル事件

以上事件ノ外ト雖モ原告若クハ被告ノ申立ニ由リ別段ノ至急ヲ要スルモノト裁判所ニ於テ認定シタルトキハ之ヲ裁判スルコトアルヘシ

前諸項ノ事件ヲ裁判スル爲ニ裁判所長ハ休暇中臨時主任ノ局又ハ委員ヲ定ムヘシ

○警視廳官制（勅令第四十二號明治十九年五月四日）

第一條　警視廳ニ左ノ警察官及屬員ヲ置ク

警視總監

警視副總監

一等警視

二等警視

三等警視

四等警視

五等警視

屬

警部
警部補
第二條　警視廳ニ左ノ醫務官ヲ置ク
警察醫長
警察副醫長
警察醫
第三條　警視廳ニ左ノ消防官ヲ置ク
消防司令長
消防司令副長
消防司令
消防司令補
第四條　警視廳ニ左ノ監獄官及屬員ヲ置ク
典獄

副典獄
書記
看守長
看守副長
第五條　總監ハ一人勅任一等又ハ二等トス內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ總轄ス
第六條　總監ハ高等警察ノ事務ニ付テハ直ニ內閣總理大臣ノ指揮ヲ承ケ其他各大臣ノ主務ニ關スル警察事務ニ付テハ直ニ各大臣ノ指揮監督ヲ承ク
第七條　總監ハ府下ノ警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍內ニ於テ警察令ヲ發スルコトヲ得但東京府知事諸省ノ事務ト交涉スルモノ

ハ府知事ト協議ヲ経連署ヲ以テ之ヲ發スヘシ

第八條　總監ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第九條　總監ハ其主任ノ事務ニ付テハ府下ノ郡區長及戶長ヲ指揮ス

第十條　總監ハ内務大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルコアラサレハ局本署部及方面ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外更ニ奏任官ヲ增加スルコトヲ得ス

本署ヲ除クノ外各署及局中諸課ノ廢置分合ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第十一條　總監ハ俸給豫算定額内ニ於テ其廳限リ定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得

第十二條　總監ハ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ

俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條　總監ハ毎會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ依リ使用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條　總監ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第十五條　總監ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條　總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ局署部ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　副總監ハ一人奏任一等トス總監ノ事務ヲ佐ク總監事故アルトキハ內務大臣ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第十八條　警視ハ奏任トス二等ヨリ六等ニ至ル總監ノ指揮監督ヲ承ケ局又ハ署ニ就キ其主務ヲ掌理ス

第十九條　屬ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ヲ掌ル

第二十條　警部ハ判任トス警視ノ指揮監督ヲ承ケ所屬ノ警部補及巡査ヲ指揮シ其主任ニ屬スル警察事務ニ從事ス

警部補ハ判任トス警部ノ職掌ヲ佐ク

第二十一條　警察醫長ハ奏任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ警察ニ關スル醫務ヲ掌理ス

第二十二條　警察副醫長ハ奏任五等又ハ六等トス醫長ノ職掌ヲ佐ク醫長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第二十三條　警察醫ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル醫長ノ命ヲ承ケ診療分析解剖等ニ從事ス

第二十四條　消防司令長ハ奏任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ消防本署ノ長トナリテ所屬員ヲ統率シ火水消防ノ事務ヲ掌理ス

第二十五條　消防司令副長ハ奏任五等又ハ六等トス司令長ノ職掌ヲ佐ク司令長事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十六條　消防司令ハ判任トス司令長ノ命ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防司令補ハ判任トス消防司令ノ職掌ヲ佐ク

第二十七條　典獄ハ判任一等又ハ二等トス總監ノ命ヲ承ケ未決已決各囚監獄ヲ管理シ書記看守長以下ノ諸員ヲ指揮監督ス

第二十八條　副典獄ハ判任トス三等ヨリ五等ニ至ル典獄ノ職掌ヲ佐ク典獄事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十九條　書記ハ判任トス六等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ承ケ書記簿記及計算ニ從事ス

第三十條　看守長ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ヲ看守シ看守ヲ指揮ス

看守副長ハ判任トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第三十一條　警部警部補消防司令消防司令補看守長及

看守副長ノ官等及月俸ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條　巡査及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十三條　警視廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ書記局第一局第二局第三局會計局警察本署醫務部消防本署及監獄本署ヲ置ク

第三十四條　各局ニ局長局次長一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ但局長アレハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ

局中課ヲ設ケ各課ニ課長一人及課僚若干員ヲ置キ屬警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ

第三十五條　局長又ハ局次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ局中各課ノ事務ヲ指揮ス

課長ハ局長又ハ局次長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス課僚ハ課長ノ指揮ヲ承ケ主務ニ從事ス

局長及局次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ局長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ局次長其職務ヲ代理ス

第三十六條　各本署ニ本署長本署次長一人ヲ置キ警視消防官又ハ典獄官ヲ以テ之ニ充ツ本署長アレハ本署次長ヲ置カス本署次長アレハ本署長ヲ置カサルコトアルヘシ

本署長本署次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス本署長及本署次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ本署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ本署次長其職務ヲ代理ス

第三十七條　部ニ部長副部長一人ヲ置キ醫務官ヲ以テ之ニ充ツ但部長アレハ副部長ヲ置カス副部長アレハ部長ヲ置カサルコトアルヘシ

部長及副部長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス部長及副部長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ部長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ副部長其職務ヲ代理ス

第三十八條　局署部ニ於テ特別ノ職員ヲ置クモノハ其局署部於テ之ヲ定ム

第三十九條　書記局ニ職員課文書課往復課及記錄課ヲ置キ本廳ノ庶務ヲ分掌セシム

一、職員課ハ本廳職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事ヲ掌ル

二、文書課ハ諸文案ヲ起草シ及之ヲ審査スルコトヲ掌ル

三、往復課ハ公文書類及電信ノ接受及發送ノ事ヲ掌

ル

四、記錄課ハ公文書類ノ編纂保存統計製圖及書籍管守ノ事ヲ掌ル

第四十條　書記局ニ參事官五人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充テ總監ノ諮問ニ應シ意見ヲ述ヘ及審議立案ノ事ヲ掌ラシム

第四十一條　第一局ニ第一課第二課第三課第四課及第五課ヲ置キ行政警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、第一課ハ諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項ヲ掌ル

二、第二課ハ演藝遊觀場遊戲場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項ヲ掌ル

三、第三課ハ船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電

信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事ヲ掌ル

四、第四課ハ人命痍傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劒水災火災難破船遺流失物埋藏物ニ關スル事ヲ掌ル

五、第五課ハ傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第四十二條　第二局ニ第一課第二課ヲ置キ司法警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル

二、第二課ハ失踪者瘋癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事ヲ掌ル

第四十三條　第三局ハ政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖畫及其他ノ出版ニ關シ高等警察ノ事務ヲ掌ル

第四十四條　會計局ニ出納課檢査課及用度課ヲ置キ本廳及所轄廳ノ會計營繕用度ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、出納課ハ本廳及所轄廳ノ經費豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓及計算表調整ノ事ヲ掌ル

二、檢査課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ檢査スル事ヲ掌ル

三、用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事ヲ掌ル

第四十五條　警察本署ハ各警察署ヲ統轄シ巡邏査察警衛及警備ノ事ヲ掌ル

警察本署ニ事務員ヲ置シ警視二人警部以下ヲ以テ之ニ充ツ

事務員ハ本署長ノ命ニ依リ本署ノ主務ヲ分掌ス

第四十六條　府下警察事務ヲ監督スル爲ニ第一方面第二方面第三方面第四方面第五方面第六方面ニ分チ須要ニ從ヒ各方面ノ區域内ニ警察署ヲ置ク

第四十七條　各方面ニ方面監督一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ

第四十八條　方面監督ハ總監又ハ本署長ノ命ヲ承ケ主任方面内ヲ巡廻シ警察ノ事務ヲ監督ス又臨時命ヲ承テ署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第四十九條　警察署ハ其所轄ノ區域内ニ於テ警察事務ヲ掌理シ各署ニ署長一人ヲ置キ事務ノ繁簡ニ從ヒ三

等以下ノ警視若クハ警部ヲ以テ之ニ充ツ、

第五十條　署長ハ其主任ノ警察事務ニ付テハ總監又ハ本署長ノ指揮監督ヲ承ク

署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ上席警部其職務ヲ代理ス

第五十一條　醫務部ハ警察ニ關スル診療解剖分析其他醫務ニ關スル事ヲ掌ル

第五十二條　消防本署ハ水火消防ニ關スル事務ヲ掌ル

各區ニ消防分署ヲ配置シ本署ノ管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置ク消防司令ヲ以テ之ニ充ツ

第五十三條　監獄本署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌リ本署ノ下分署ヲ置キ其管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置キ典獄又ハ副典獄ヲ以テ之ニ充ツ

別表

任官

判	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
警部	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			
消防司令	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			
看守長					貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			
警部補								拾八圓	拾五圓	拾貳圓
消防司令補								拾八圓	拾五圓	拾貳圓
看守副長								拾八圓	拾五圓	拾貳圓

○北海道廳官制

勅令第八十三號
明治十九年十二月廿八日

第一條　北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官
理事官
屬
警部
警部補

第二條　北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク

郡長
區長
郡書記
區書記

第三條　北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク

典獄
書記
看守長
監獄醫

第四條　長官ハ一人勅任一等トス內閣總理大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ北海道ノ拓地殖民及警察ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第五條　長官ハ屯田兵開墾授產ノ事ヲ監督ス

第六條　長官ハ法律勅令閣令ノ北海道ニ施行シ難キモノアリト思量スルトキハ其意見ヲ具ヘ內閣總理大臣ニ上申シ其省令ニ係ルモノハ主務ノ大臣ニ上申スルコトヲ得又北海道ニ須要ナリト認ムル所ノ法律命令

ノ案ヲ具ヘ内閣総理大臣又ハ主務ノ大臣ニ上申スルコトヲ得

第七條　長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第八條　廳令ハ内閣総理大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラルヽコトアルヘシ

第九條　長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎮臺營所及屯田兵ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條　長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣総理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條　長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内閣総理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　長官ハ内閣総理大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルニアラサレハ部ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外更ニ奏任官ヲ增加スルコトヲ得ス

第十三條　長官ハ土地ノ情況ニ依リ監獄署ヲ設置又ハ分合スルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　長官ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十五條　長官ハ一周年末ニ其廳豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内閣総理大臣ニ具狀シ判任官

以下ハ之ヲ專行ス

第十六條　長官ハ毎會計年度末ニ於テ所轄事業ノ情況及其處務ノ方法幷功程ヲ具ヘ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十七條　長官ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額內ニ於テ內閣總理大臣ノ認可ヲ經勅令第三十八號技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得

第十八條　長官ハ一郡區又ハ數郡區ニ警察署ヲ置キ郡區長ヲ以テ署長ニ充テ管內一切ノ警察ヲ掌ラシメ又警察署ノ下其部內ニ於テ警察分署ノ配置分合ヲ定ムヘシ

第十九條　長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第二十條　理事官ハ十人奏任トス長官ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ管理ス長官事故アルトキハ上席理事官其職務ヲ代理ス

第二十一條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ各庶務ニ從事ス

第二十二條　警部警部補ハ判任トス其官等俸給ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依ル長官又ハ警察署長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十三條　郡長ハ毎郡若クハ數郡ニ一人區長ハ毎區ニ一人ヲ置キ奏任四等以下トス長官ノ命ヲ承ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ兼テ郡區警察署長ト爲リ警部警部補ヲ指揮監督ス

第二十四條　郡區書記ハ判任三等以下トシ郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ヲ分掌ス

第二十五條　典獄ハ奏任三等四等又ハ判任一等二等トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第二十六條　書記ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條　看守長ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第二十八條　監獄醫ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第二十九條　巡査及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十條　北海道廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ左ノ各部ヲ置キ理事官ヲ以テ部長及部次長ト爲ス但部長アレハ部次長ヲ置カサルコトアルヘシ

第一部　職員進退文書往復ニ關スル事項
一　官印廳印ヲ管守スル事
一　記錄編輯統計報告ニ關スル事項
一　學務衛生社寺ニ關スル事項
一　警察監獄ニ關スル事項
一　兵事戸籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項
一　外國人ニ關スル事項
一　他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

一 農工商務ニ關スル事項
一 地理山林ニ關スル事項
一 水陸運輸ニ關スル事項
一 漁獵ニ關スル事項

第三部

一 河港堤防道路橋梁排水溝渠ニ關スル事項
一 鐵道工事及官衙ノ建築修繕ニ關スル事項

第四部

一 金錢物品ノ管理出納收支ニ關スル事項
一 豫算決算ニ關スル事項
一 國稅地方稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
一 公債證書貸下金及準備米ニ關スル事項

第三十一條 各部中便宜課ヲ設ケ判任官ヲ以テ課長トス課長ハ命ヲ部長及部次長ニ承ク

第三十二條 勅令第五十四號地方官々制中警察官及郡區官ニ係ル條項本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區官ニモ之ヲ適用ス

○札幌農學校官制 勅令第八十四號 明治十九年十二月廿八日

第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農工ニ關スル學術技藝ヲ教授スル所トス

第二條 札幌農學校ノ各專門學科ヲ卒ヘ定規ノ試驗ヲ經タル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條 札幌農學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長
幹事

教授
助教
訓導
舍監
書記

第四條　校長ハ一人奏任トス北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ總轄シ幹事以下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條　幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條　教授二人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條　助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第八條　訓導ハ判任トス農工ノ實業ヲ授クルコトヲ掌ル

第九條　舍監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ命ヲ承ケ生徒及校舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○集治監官制

勅令第七十七號
明治十九年十二月一日

第一條　集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄
副典獄
書記
看守長
監獄醫

第二條　典獄一人奏任三等又ハ四等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ監獄ノ事務ヲ管理ス

第三條　典獄ハ所属ノ官吏ヲ統督シ判任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第四條　典獄ハ内務大臣ニ具狀シテ判任官ノ定員ヲ設ケ及ヒ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第五條　典獄ハ毎會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ由リ使用シタル雇員ノ日數及ヒ金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第六條　典獄ハ一周年末ニ其監ノ豫算定額内ニ於テ判任官以下特別勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第七條　典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第八條　典獄ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第九條　副典獄一人判任一等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ内務大臣ノ命ニ依リ其事務ヲ代理ス

第十條　書記ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ書記簿記計算ヲ掌ル

第十一條　看守長ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ監獄ヲ戒護シ看守ヲ指揮ス

第十二條　監獄醫ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第十三條　看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十四條　集治監ノ事務ヲ分掌スル爲メ庶務課、警守課、工役課、會計課、及ヒ醫務所ヲ置ク

第十五條　各課ニ課長一人醫務長ニ所長一人ヲ置ク

庶務工役會計課長ハ書記、警守課長ハ看守長、醫務所長ハ監獄醫ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　課長所長ハ典獄ノ命ヲ受ケ主務ヲ處理ス

第十七條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　諸官廳其他往復文書ノ授受發送ニ關スル事

二　監獄ニ係ル公文圖書類ヲ保存スル事

三　監獄ノ構造方法ニ關スル事

四　囚徒ノ出入ニ關スル事

五　囚徒ノ名籍並ニ刑期ヲ調査スル事

六　囚徒ノ願訴ニ關スル事

七　囚徒ノ貨物領置ニ關スル事

八　給與品及ヒ差入品ニ關スル事

九　教誨並ニ衛生ニ關スル事

十　特赦及ヒ假出獄免幽閉ニ關スル事

十一　監獄ニ關スル統計表ヲ調製スル事

十二　監獄ニ係ル事務ニシテ他課ノ主管ニ屬セサル事

第十八條　警守課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　囚徒ヲ戒護ニ關スル事

二　囚徒ノ書信接見ニ關スル事

三　囚徒ノ疾病死亡逃走ニ關スル事
四　囚徒ノ賞罰ニ關スル事
五　囚徒ノ行狀錄ヲ調製スル事
六　囚徒ノ作業ヲ督勵スル事
七　囚徒ノ願訴ヲ受付スル事

第十九條　工役課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　工業ニ關スル事
二　服役囚徒ノ科程並ニ工錢ヲ定ムル事
三　工業ニ要スル器具材料ヲ調査スル事
四　製作物品ヲ審査スル事

第二十條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　經費ノ豫算決算ニ關スル事
二　金錢物品ノ出納ニ關スル事

三　囚徒ノ工錢給與ニ關スル事
四　製作品ノ飯賣ニ關スル事
五　監獄一切ノ需用品ヲ供給スル事
六　監獄ノ建物其他ノ財產ヲ保管スル事

第二十一條　醫務所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　囚徒ノ疾病診察治療及ヒ藥劑ニ關スル事

○假留監官制（閣令第三十三號 明治十九年十二月一日）

假留監官制ハ勅令第七十七號集治監官制ニ準據スヘシ

○中央衞生會官制（勅令第六十九號 明治十九年十一月四日）

第一條　中央衞生會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ各省大臣ノ諮詢ニ應シ公衆衞生獸畜衞生ニ關シテ意見ヲ述ヘ

及其施行方法ヲ審議ス

第二條　中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其主任大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ヲ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ檢察セシムルコトヲ得

第四條　中央衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ內務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第五條　中央衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ

會長　內務次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員　左ノ各官ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍省醫務局長

海軍省衛生部長

宮內省侍醫局長官

帝國大學醫科大學長

警視總監

東京府知事

內務省衛生局長

內務省警保局長

內務省參事官　二人

其他醫師七人獸醫二人及化學家二人ヲ以テ委員トス

臨時委員

幹事　內務省衛生局長ヲ以テ之ニ充ツ

書記

第六條　會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議

定セシモノヲ內務大臣及主任大臣ニ具申ス

第七條　會長事故アルトキハ開會當日ノ上席人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第八條　委員中醫師獸醫化學家內務省參事官及臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第九條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十條　書記ハ判任トシ會長之ヲ任免ス上官ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

○地方官官制

勅令第五十四號
明治十九年七月十二日

府縣

第一條　各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事

書記官

收稅長

屬

收稅屬

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第二條　知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス內務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政及警察ノ事務ヲ總理ス但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコト

ヲ得

第三條　知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條　府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効力アルモノトス

第五條　府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラルヽコトアルヘシ

第六條　知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條　知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條　知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎭臺若クハ分營ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條　知事ハ各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定ム

第十條　知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十一條　知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條　知事ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條　知事ハ共須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方税ヲ以テ支弁スヘキ事業ノ經費内ニ於テスルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條　書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリテ其所部ノ事務ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十五條　収税長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租税ノ賦課徴収及徴税費ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條　属ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス

第十七條　収税属ハ判任トス収税部ニ属シ収税長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス

第十八條　典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條　副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十條　書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條　看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

第二十二條　看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第二十三條　看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十四條　府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一部第二部ヲ置キ部中便宜課ヲ設ケ書記官ヲシテ各一部ノ長タラシム

第一部

一、府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項

二、地方税區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項

三、外國人ニ關スル事項

四、文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ管守スル事

五、農工商務ニ關スル事項

六、他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

一、土木ニ關スル事項

二、兵事ニ關スル事項

三、學務ニ關スル事項

四、監獄ニ關スル事項

五、衛生ニ關スル事項

六、會計及公債證書ニ關スル事項

第二十五條　前條ノ外府縣廳中ニ收税部ヲ置キ租税ノ賦課徵收及徵税費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム

部中課ヲ設クルハ第二十四條ノ例ニ依ル

第二十六條　前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定ムルコトヲ得

警察官

第二十七條　各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長
警部
警部補

第二十八條　警部長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ職務ヲ掌ル

一、管内高等警察ノ事
二、管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務ヲ整理スル事
三、管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮スル事
四、管内各警察署及各警察分署ニ必要ノ警察官ヲ分配スル事

第二十九條　警部ハ判任一等乃至七等警部補ハ判任八

等以下トス警部長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十條　各府縣ニ警察本部ヲ置キ前第二十四條ニ指定スルノ外府縣廳中ノ一部トシ警部長ヲシテ其長ニ充テ部中課ヲ設ケ前第二十八條ノ事務ヲ掌理セシム

第三十一條　府縣内各郡區ニ警察署一箇所ヲ置キ警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ヲ配置シ警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部内ノ高等警察行政警察及司法警察ヲ掌リ法律命令ノ勵行ヲ監督ス其項目左ノ如シ

一、諸營業市場會社製造所度量衡教會講社説教及拜禮ニ關スル事項
二、演藝遊觀場遊戯場遊憩場徽章祭典葬儀賭博

三、富籤其他風俗ニ關スル事項
四、船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鉄道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事項
五、人命疾傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺流失物埋藏物ニ關スル事項
六、傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事項
七、諸般ノ犯罪人ヲ捜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スル等ニ關スル事項
八、失踪者瘋癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事項

八、政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關スル事項

第三十二條　各警察官ハ其職權ニ依リ又ハ上官ノ命ニ依リ若クハ部長收稅長郡區長戶長及其他行政官ノ請求ニ應シ又司法警察ニ關シテハ檢察官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ執行スヘシ

第三十三條　警察官ハ總テノ場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲ストキハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモノトス

第三十四條　他府縣ヨリ警察ノ事務ニ關スル照會ハ必ス知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ警部長又ハ其事ノ執行ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得

第三十五條　巡査ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十六條　東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依リ本令中ノ條項ニ指定スル限ニアラス

郡區

第三十七條　毎郡若クハ數郡ニ郡長一人毎區ニ區長一人及書記若干人ヲ置ク

第三十八條　郡區長ハ奏任四等以下書記ハ判任三等以下トス

第三十九條　郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第四十條　郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スル

ヲ得

第四十一條　郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戸長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十二條　郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條　郡區長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付部内一般ニ告示スルコトヲ得

第四十四條　郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十五條　郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

島地

第四十六條　長崎縣鹿兒島縣其他今後指定セラルヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ

委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四十七條　島司ハ奏任三等以下トス

○大小林區署官制（勅令第十八號 明治十九年四月十六日）

第一條　大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一、長期施業案編制ノ事

二、小林區豫算ニ關スル事項

三、管區巡回視察ニ關スル事項

四、官林產物賣拂許否ニ關スル事項

五、林地境界調査分合ニ關スル事項

六、林地ノ變更及貸渡ニ關スル事項

第二條　大林區署ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

林務官

林務官補

書記

第三條　林務官ハ奏任三等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ大林區署長ト爲リテ所轄官林ヲ管理ス

第四條　林務官補ハ判任トス其所部ヲ監督シ及署務ヲ分掌ス

第五條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一、短期施業豫算ノ事

二、山林諸產物採收及賣却ニ關スル事項

三、造林及林地改良ニ關スル事項

四、官林保護ニ關スル事項
五、官林內道路其他築造ニ關スル事項
六、林地測量製圖ノ事

第七條　小林區署ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

營林主事

營林主事補

森林監守

第八條　營林主事ハ判任トス農商務大臣林務官又ハ林務官補ノ指揮監督ヲ承ケ小林區署長ト爲リテ所轄小林區ノ業務ヲ掌ル

第九條　營林主事補ハ判任トス署長ノ指揮ヲ承ケ營林ノ業務ヲ分掌ス

第十條　森林監守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ林區保

護ニ從事ス

森林監守ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

十七年四月廿五日第三十九號公達ヲ以本條中（廢廳廢官又ハ）ノ六字刪除

非職

○官吏非職條例

太政官達第三號 明治十七年一月四日

第一條　官吏（判任官以上并ニ出仕御用掛モ之ニ準ス）奉職中廢廳廢官又ハ各官廳ノ事務張弛其他疾病等ノ事故ニ因リ本屬長官ハ其僚屬ノ官吏ニ非職ヲ命スルコトヲ得但勅任官ノ非職ハ上裁ニ依リ奏任官ハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス

第二條　非職員ハ其本官ヲ奉シテ常ニ其職務ニ從事セス其他總テ在職官吏ニ異ナルコトナシ

第三條　本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ非職員ヲシテ更ニ其職務ニ從事セシムルコトヲ得非職員復職スルトキハ勅任官ハ上裁ニ依リ奏任官ハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス

十七年四月廿五日第三十九號公達ヲ以本條追加

十七年九月廿五日第七十七號公達ヲ以第七條八條追加

第四條　非職ハ三年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第五條　非職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第六條　廢廳廢官ノ際御用滯在ヲ命スル者アルトキハ本條例ニ準據ス

第七條　非職員ハ特ニ本屬長官ノ許可ヲ得テ地方病院學校及農工商陸海運輸等會社ノ業務ニ從事シ其役員ト爲ルコトヲ得

本屬長官ハ其非職員ノ勅任官ニ係ルモノハ上裁ニ依リ奏任官ニ係ルモノハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ許可ス

第八條　非職中第七條ノ業務ニ從事シ其給料ヲ受ルノ時間ハ第五條ノ俸給ヲ支給セス

○非職官吏ノ俸給下渡并移轉商業等ノ事項

閣令第一號明治十九年二月二十七日

第一條　凡ソ非職官吏ノ俸給ハ大藏省ニ於テ下渡スヘシ

第二條　本屬長官ハ非職官吏ノ官等俸給氏名住所及非職ノ年月日等ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第三條　非職官吏ハ本屬長官ニ屆出テ本屬官廳所在ノ地ノ外ニ住居スルコトヲ得

第四條　本屬長官前條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ大藏大臣ニ通知シ大藏大臣之ヲ地方官ニ通知シ該廳ヲ經由シテ俸給ノ下渡ヲ爲スヘシ

第五條　非職官吏移轉地ニ到着シタルトキハ其住所ヲ本屬長官及地方官ニ屆出ヘシ嗣後更ニ其住所ヲ移轉

スルトキモ亦同シ

第六條　非職官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ムコトヲ得

○非職官吏俸給支給方（大藏省令第五號 明治二十年三月二十四日）

客年當省令第十七號ハ本月限リ廢止シ非職官吏俸給支給スヘキ月分ヲ積算シ年俸ニ準ス（奏任官以上ニシテ月俸ノ者ハ十二箇月分ヲ積算シ年俸ニ準ス）ノ儀ハ總テ當年當省令第十二號及ヒ第二十號高等官及ヒ判任官俸給支給細則ニヨリ支給ス

但非職俸給渡日ハ高等官ハ一箇年ヲ四期ニ分チ毎期中ノ月四日（當日休暇ナル時ハ順延）判任官ハ毎月十五日ヨリ五日以内ト定ム

○非職俸給增減請求書差出方（内務省訓令第八號 明治十九年六月十五日）

本年四月以降非職又ハ其年度内ニ於テ復職ヲ命シタルトキハ該員ニ相當スル俸給年額ヲ算出シテ毎年四回（七月十月一月四月）增額或ハ減額請求書ヲ差出スヘシ

但一目中ニ於テ增減共ニ生スルトキハ彼此差引ノ上增額又ハ減額ノミ請求スヘシ

○非職官吏俸給交付手續（大藏省訓令第三十一號 明治十九年七月九日）

一大藏省ハ毎月非職官吏ノ俸給交付額ヲ定メ北海道廳府縣ニ其交付ノ令達ヲナス

一北海道廳長官府知事縣令ハ前項ノ令達ヲ受クルトキハ其支拂ヲ會計主務官ニ命ス

一會計主務官前項支拂ノ命令ヲ受ルトキハ通常經費支

拂ノ手續ニ據リ支拂切符ヲ發シテ之ヲ受取人ニ交付ス

一會計主務官ハ其管下隔地ニ居住スルモノニ非職俸給ヲ交付セントスルトキハ歲出取扱順序第七條ニ準シ送金ヲ金庫ニ請求シ送金手形ヲ得テ之ヲ受取人現住地方ノ郡區長ニ送付シ受取人ニ交付セシムルコトヲ得

一大藏省ノ令達額中他管下ニ轉住シタルモノアルトキハ會計主務官ハ前項ノ手續ニ準シ送金手形ヲ得テ受取人新住地ノ管廳ニ送付シ之ヲ交付セシム

一北海道廳長官府知事縣令ハ歲入歲出々納規則第七十一條ニ據リ毎月歲出ノ報告書ヲ製シ內譯明細書ヲ添テ之ヲ大藏省ヘ送付ス

○恩給令ニ據リ非職者ニ給スル一時賜金取扱方 大藏省訓

（令第三十二號 明治十九年七月十五日）

一官吏恩給令第二十九條第三十條ニ據リ非職官吏ノ退官者又ハ其遺族ニ支給スヘキ一時賜金ハ本屬廳ノ請求ニ據リ受給者居住地ノ地方廳ヨリ交付スルモノトス

一本屬廳ハ非職官吏ニ退官ヲ命シタルトキ又ハ非職官吏死亡ノ屆ヲ得タルトキハ其支給金額ヲ取調本人ノ履歷書受給者ノ姓名居住地調書ヲ添ヘテ其交付ヲ大藏省ヘ請求スルモノトス

一大藏省ハ前項ノ請求ヲ得ルトキハ北海道廳又ハ府縣廳ニ其交付ノ令達ヲナス

一北海道廳長官府知事縣令ハ前項ノ令達ヲ受ルトキハ其支拂ヲ會計主務官ニ命ス

一會計主務官前項支拂ノ命令ヲ受ルトキハ通常經費支拂ノ手續ニ依リ支拂切符ヲ發シテ之ヲ受給者ニ交付ス

一會計主務官其管下隔地ニ居住スルモノニ此賜金ヲ交付セントスルトキハ藏出取扱順序第七條ニ準シ送金ヲ金庫ニ請求シ送金手形ヲ得テ之ヲ受取人現住地方ノ郡區長ニ送付シ受給者ニ交付セシムルトヲ得

一第三項ノ令達ヲ受ケタルトキ受給者若シ他管下ニ轉住ノモノアラハ會計主務官ハ前項ノ手續ニ準シ送金手形ヲ得テ受給者新住地ノ管廳ニ送付シ之ヲ交付セシム

一歳入歳出々納規則第七十一條ニ據リ大藏省ヘ送付スヘキ歳出報告書ハ恩給ニ同シ

○非職者滿期屆出方 大藏省訓令第四號 明治二十年一月廿四日

非職官吏ハ年限滿期ノ日ニ於テ本官自ラ消滅スヘキ筈ニ付其滿期本官消滅ノ者ハ十九年閣令第一號第二條ニ照準シ其旨當省ヘ屆出ヘシ

○各廳經費中非職俸減額廢止 内務省訓令第十二號 明治二十年三月十一日

明治十九年四月一日已降各廳ニ於テ官吏ニ非職ヲ命シタルトキハ其非職俸ニ該當スル金額ヲ其廳經費豫算内ヨリ減額候處右ハ十九年度限リ廢止ス

○非職俸給決算帳差出方 大藏省訓令第五十二號 明治十九年十月十六日

當省訓令第三十一號ニ依リ交付スル非職俸給決算帳ノ儀ハ當省ヲ經由シテ會計檢査院ニ差出ス儀ト心得ヘシ

但決算證明上ニ要スル證書類ハ直ニ會計檢査院ニ差出スヘシ

給與

○高等官々等俸給令　勅令第六號　明治十九年三月十七日

官等及叙任

第一條　高等官ヲ分テ勅任官奏任官トス

第二條　勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首坐ノ大臣之ニ副署ス

第三條　親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外勅任官ヲ分テ二等トス其辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第四條　奏任官ヲ分テ六等トス其任官ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條　奏任官ノ辭令書ハ內閣ノ印ヲ鈐シ內閣總理大臣之ヲ宣行ス

第六條　各官同等內ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル

第七條　勅任官又ハ奏任官ノ官等內ニ於テ特ニ官等ヲ限ルコトヲ要スルモノハ各別ニ之ヲ定ム

第八條　內閣及各省中ノ局長ハ奏任官一等又ハ二等トシ局次長ハ現任局長ノ次等以下トス

第九條　同一ノ官名ニシテ等差アルモノハ每等人員ヲ定メ內閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ其每等ノ定員變更ヲ要スルトキモ亦同シ

俸給

第十條　勅任奏任文官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第十一條　陸海軍武官ノ年俸ハ從前定ムル所ニ依ル

第十二條　議官交際官領事貿易事務官判事檢事理事地方官敎官技術官ノ類其特ニ定ムル俸給ハ前條ノ外トス

第十三條　奏任官ノ年俸ハ各廳俸給定額內及其官等年俸ノ等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ各大臣便宜之ヲ增減スルコトヲ得

陞叙及特例

第十四條　官等ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得

第十五條　每等人員ヲ定ムルノ官ハ五年ヲ踰ユルモ闕員アルニアラサレハ陞敍スルコトヲ得ス

第十六條　局長ノ闕員ニ依リ局次長ヲ以テ其闕ヲ補フコトヲ要スルトキハ第十四條ノ例ニ依ラス

第十七條　各大臣秘書官ノ進退ハ第十四條第十五條ノ例外トス

第十八條　勅任官ハ本令ノ外勅旨ヲ以テ特ニ其年俸ヲ增給スルコトアルヘシ

第十九條　奏任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケタル者勞績拔群顯著ナルハ內閣ノ上奏ニ依リ特旨ヲ以テ勅任官二等ノ下級俸ヲ給スルコトアルベシ

第二十條　奏任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼ヌル所ノ俸給三分ノ一以內ヲ增給スルコトヲ得

同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第二十一條　官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第二十二條　本令中俸給ニ關スル細則ハ大藏大臣其省

令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

別表

勅任官		奏任官					
內閣總理大臣	九千六百圓	各省大臣	六千圓				
一等	上	五千圓	下	四千五百圓			
二等	四千圓			三千五百圓			
一等	上	三千圓	中	二千八百圓	下	二千六百圓	
二等	二千四百圓			二千二百圓		二千圓	
三等	千八百圓			千六百圓		千四百圓	
四等	千二百圓			千百圓		千圓	
五等	九百圓			八百圓		七百圓	
六等	六百圓			五百圓		四百圓	

○高等官俸給支給細則（大藏省令第十二號 明治十九年四月五日）

第一條　高等官ノ年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第二條　俸給ノ支給ハ漸任轉任增俸減俸共總テ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條　廢官退官及ヒ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス

第四條　非職廢官退官ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙ホ從前ノ俸ヲ給與ス

第五條　願濟休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障（自己ノ病氣ヲ除ク）ニ由リ上廳セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第六條　病氣（轉地療養トモ）ニ由リ上廳セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス

第七條　優恩ニ由リ賜暇休養及ヒ暑中休暇ハ第五條及ヒ第六條ノ限ニアラス

第八條　兼官ノ增俸ハ其兼任廳經費ノ內ヨリ支給スルモノトス

第九條　各廳俸給ノ支給ハ左ノ日割ニ依ルモノトス

但休日ニ當ルトキハ順延トス

四日（內閣內務省　外務省大藏省）

五日（陸軍海軍省　司法省文部省）

六日（農商務省元老院　逓信省會計檢査院）

第十條　轉任ノ場合ニ於テハ發令ノ日マテ前任廳ヨリ其俸ヲ支給スルモノトス

第十一條　轉任ノ時前任廳ニ於テ俸給ノ過渡アルトキハ新任廳ヨリ直チニ之ヲ前任廳ニ返付ス

第十二條　降等減俸賜暇旅行病氣其他ノ事故ニ由リ俸給ヲ追徵スヘキモノアルトキハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十三條　非職ノ時其追徵スヘキ金額ハ大藏省ヨリ曩キニ支給シタル官廳ニ返付シ大藏省ハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十四條　會計ヲ異ニスル廳ヨリ官吏ヲ借用スルトキハ其間ノ俸給ハ日割ヲ以テ借用廳ヨリ該官吏所屬ノ廳ニ返付ス

第十五條　第五條ノ場合ト第六條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第五條ニ始マリ第六條ニ終レハ其間通算シ九

十日ノ後俸給ヲ減シ第六條ニ始マリ第五條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ後俸給ヲ減ス

第十六條　日割計算ノ法ハ年俸十二分ノ一ヲ以テ一箇月分トシ其月ノ現日數ニ割合計算スルモノトス

○高等官俸給支給細則附則

大藏省令第十五號　明治十九年四月十四日

一新官制ニ依リ本年四月一日以前ニ任官ノモノハ總テ四月一日ヨリ起算シテ年俸ヲ支給ス同日以後任官ノモノハ其當日マテ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ其翌日ヨリハ新官ノ俸給ヲ支給スルコト本則第二條ニ據ル但シ前官ナキモノハ總テ任官ノ翌日ヨリ起算シテ年俸ヲ給スルモノトス

一他所在勤又ハ出張ノ官吏ニシテ非職ヲ命セラレタル

モノヽ年俸ハ命令到達ノ日マテ在職俸ヲ支給ス

一他所在勤又ハ出張中廢官退官ノ時其命令到達ノ月マテハ尚ホ從前ノ俸ヲ給ス

一忌引ニ由リ上應スル能ハサル場合ニ於テハ本則第五條及第六條ノ日數ヲ算入セス

一優恩ニ由リ賜暇休養暑中休暇及忌引等ノ場合ト本則第五條第六條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇休養休暇又ハ忌引ノ日數ヲ除キ前後ノ日數ヲ計算シテ減俸スルモノトス

○判任官等俸給令

（勅令第三十六號 明治十九年四月廿九日）

第一條　判任官ヲ分テ十等トシ一等ヨリ十等ニ至ル

第二條　判任文官ノ月俸ハ別表ニ依ル

第三條　陸海軍准士官下士ノ月俸ハ從前定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第四條　判任官五等以上ハ毎等在職四年六等以下ハ毎等在職三年ヲ踰ユルニアラサレハ昇等スルコトヲ得ス

第五條　毎等ニ定員ヲ限リ缺員アルニアラサレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス

第六條　判任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘタル者勞績拔群顯著ナルモノハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ハラス漸次百圓マテ增俸スルコトアルヘシ

第七條　官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第八條　本令中俸給細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ

定ムヘシ

別表

判任官	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
上	七拾五圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾貳圓
下	六拾圓									

○技術官等俸給令（勅令第三十八號 明治十九年四月二十九日）

第一條　各廳ニ於テ工藝技術ヲ要スルモノハ職員ノ外特ニ技術官ヲ置ク

第二條　技術官ヲ分テ技監技師技手トス

第三條　技監ハ勅任トシ技師ハ奏任トシ一等技手ヨリ六等技手ニ至リ技手ハ判任トシ一等技手ヨリ十等技手ニ至ル

第四條　技監技師ノ叙任奏薦辭令書同等內ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ勅令第六號高等官々等俸給令ニ依ル

第五條　技手ノ月俸ハ別表定ムル所ニ從ヒ各廳俸給定額內ニ於テ事業ノ繁簡ニ應シ便宜增減支給ス

第六條　技手ハ各廳ノ便宜ニ從ヒ別表技手俸給範圍內ニ於テ日給トナスコトヲ得

第七條　技手ノ昇等每等ノ定員特別增俸及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第八條　技手ノ人員ハ事業ノ繁簡ニ從ヒ本屬大臣ノ定ムル所ニ依ル但定員ノ外俸給定額內ニ於テ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

第九條　日給ノ技手疾病ニ罹リ缺勤三十日以内ニシテ其證據明白ナルトキハ日給ノ半額ヲ給スルコトアルヘシ但公務ニ依リ傷痍シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ本條ノ限ニアラス

第十條　日給技手ヲ定時間外ニ服業セシムルトキハ俸給定額内ニ於テ便宜加給スルコトヲ得

第十一條　日給技手ヲ除クノ外總テ技術官ハ其主務ノ便宜ニ依リ其年俸又ハ月俸ノ半額ヲ給シ之ニ休職ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條　技術官ニシテ休職ヲ命セラレ普通文官ノ事務ヲ兼スルモノハ兼官ニ就テ其年俸又ハ月俸ヲ給ス但此ノ場合ニ於テハ別ニ休職俸ヲ給セス

別表

判任官

一等技手	二等技手	三等技手	四等技手	五等技手	六等技手	七等技手	八等技手	九等技手	十等技手
上　八拾圓	七拾圓	五拾五圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	拾八圓
中　七拾圓	六拾圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓
下　六拾圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾貳圓

○地方官官等俸給令

勅令第五十五號
明治十九年七月十二日

第一條　知事ノ年俸ヲ定ムル左ノ如シ

勅任二等　上四千五百圓　下四千圓

奏任一等　上三千五百圓　下三千圓

第二條　知事ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ其年俸ヲ增給セス

第三條　東京府知事ノ勅任一等ニ陞リタル場合及知事

ノ敍任特例ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル

第四條　書記官警部長收稅長郡區長ノ敍任同等內ノ順序定員年俸及陞敍特例ハ前條ニ同シ

第五條　屬典獄副典獄郡區書記監獄書記ノ俸給昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第六條　警部警部補看守長看守副長及收稅屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依リ昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ前條ニ同シ

別表

判任官

官等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
警部	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			

判任官

官等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
收稅屬	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾貳圓 上拾圓 下八圓	
警部補								拾八圓	拾五圓	拾貳圓
看守長					貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			
看守副長										

○判任官俸給支給細則（大藏省令第二十號明治十九年五月四日）

第一條　判任官ノ月俸ハ每月左ノ日割ニ依リ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順次繰上トス

二十六日（內閣 內務省 外務省 大藏省）

二十七日（陸軍省 司法省 海軍省 文部省）

二十八日（元老院 農商務省 遞信省 會計檢査院）

右ニ屬セサル諸廳

第二條　增俸減俸(非職減俸共)ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條　新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第四條　轉任ノトキハ前任廳ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第五條　公務ニ由リ旅行スルモノニハ第一條ノ日割ニ拘ラス翌月ヨテノ俸給ヲ給與スルコトヲ得

第六條　右ニ掲ル者ノ外ハ總テ高等官年俸支給法ノ例ニ據ル

附則

一新官制ニ依リ本年五月一日以前ニ任官ノモノハ總テ五月一日ヨリ起算シテ俸給ヲ支給シ同日以後任官ノモノハ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ新官ノ俸給ハ其翌日ヨリ起算スルモノトス

○廳府縣傭員俸給支給方（大藏省訓令第四十三號 明治十九年九月十三日）

傭員俸給支給方ノ儀ハ判任官ト權衡ヲ失ハサル樣適宜之ヲ定メ當省ヘ屆出ヘシ

○內務省傭員俸給支給概則（省中達 明治十九年九月廿七日）

本省雇員俸給支給概則別紙之通相定メ候條來ル十月一日ヨリ施行スヘシ

（別紙）

內務省傭員俸給支給概則

第一條　傭員月俸ハ總テ判任官俸給支給細則ノ例ニ依ル其支給日ハ毎月二十八日トス

第二條　傭員日給ハ日數ニ依リ支給スルモノトス但自己ノ故障ニ由リ上廳セサルモノハ支給ノ限ニアラス

第三條　傭外國人俸給ハ各其約定ニ依リ支給スルモノトス

○巡査看守俸給支給規則（内務省令第二十三號　明治十九年十月十六日）

第一條　巡査看守ノ月俸ハ毎月二十八日ヲ以テ支給ノ定日トス但休日ニ當ルトキハ繰上トス

第二條　巡査教習中ハ認可ヲ經テ定額ノ俸給ヲ減少支給スルコトヲ得

第三條　免職ノトキハ當月分ノ俸給日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條　願濟休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障（自己ノ病氣ヲ除ク）ニ由リ出署セサルモノ日數二十日後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第五條　豫備及後備軍籍ニアル者召集ノ節其出發ノ日ヨリ歸署ノ前日迄ハ俸給ヲ支給セス

第六條　右ニ掲クルモノヽ外ハ判任官俸給支給細則ニ依ル

○集治監假留監雇員俸給支給概則（内務省訓令第九四四號　明治十九年十二月十八日）

其監雇員俸給支給概則別紙ノ通相定候條來二十年一月ヨリ施行スヘシ

右訓令ス

（別紙）

一雇員月俸ハ總テ判任官俸給支給細則ノ例ニ依ル其支給日ハ毎月二十八日トス

一雇員日給ハ日數ニ依リ支給スルモノトス但自己ノ故障ニ由リ上廳セサルモノハ支給ノ限ニアラス

○神宮職員官等表（勅令第七十一號 明治十九年十一月廿二日）

	奏任	判任
勅任	二等	三等
祭主	宮司	權宮司
月俸	三拾圓	二拾五圓
	拾五圓	拾二圓
	八圓	七圓
	八拾圓	三拾圓

○官國幣社神職（勅令第四號 明治二十年三月十七日）

官國幣社ノ神官ヲ廢シ更ニ左ノ神職ヲ置ク

宮司

禰宜

主典

宮司ハ內務省ニ於テ之ヲ補シ禰宜主典ハ北海道廳府縣ニ於テ之ヲ補ス靖國神社宮司以下ハ陸軍省海軍省ニ於テ之ヲ補ス

宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ禰宜主典ハ判任ノ待遇ヲ受ク

○巡査看守給助例施行期限（內務省達甲第七號 明治十九年二月廿六日）

明治十五年七月第四拾壹號公達巡査看守給助例ノ儀未タ

施行セサル地方モ有之候處明治二十年度ヨリ施行スヘシ

○傳染病豫防救治ニ從事感染及死亡者手當金（閣令第三號）

明治十九年七月十三日

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

一手當金ヲ分チ吊祭料救助料療治料ノ三種トス

一救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

一療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス

一吊祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス

一救助料ヲ分テ二等トス

一等　俸給五箇月分日給百五十日分

二等　俸給三箇月分日給九十日分

一感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス

一療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○官吏恩給令（太政官達第壹號）

明治十七年一月四日

第一條　官吏恩給ハ文官勅任官奏任官判任官共本官奉職ノ年數及ヒ其年齡ニ依リ退官後之ヲ支給ス但出仕ハ本官ニ準ス

第二條　恩給ハ官吏滿十五年以上奉職シ年齡六十歲ニ至リテ退官ヲ許シタル者又ハ年齡六十歲ニ至ラスト雖ヒ滿十五年以上奉職シタル後廢官廢廳若クハ不治ノ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサル確証アル者ニ終身之ヲ給ス

大臣參議各省卿元老院議長參事院議長ハ滿二年以上奉職シタル後退官スル時ハ特旨ヲ以テ終身恩給ヲ支給スルコトアル可シ

第三條　在職滿十五年以內ト雖ヒ公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負ヒ其職ニ堪ヘス退官セシメタル者亦終身恩給ヲ支給ス

第四條　公務ニ依リ重傷ヲ負ヒ若クハ不治ノ病ニ罹リ開業醫ノ診斷書ヲ添ヘテ其職ニ堪ヘサル旨ヲ証明スルヿヲ得ル時ハ其退官ヲ許シ在職年數ニ拘ハラス終身恩給ヲ支給ス

第三條及ヒ前項ノ場合ニ於テ盲聾或ハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ不治ノ症ニ罹リタル者ハ其退官ヲ命シタルト又ハ退官ヲ許シタルトニ拘ハラス其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ現官相當恩給ノ外ニ猶其最下金額十分ノ七迄ヲ增給スルヿアルヘシ

開業醫ノ診斷書ニ就キ疑フヘキモノアルトキハ本屬長官ハ更ニ醫員ヲ派遣シ其診斷書ニ依リ事實ノ當否ヲ判定ス可シ

第五條　恩給ハ退官現時ノ俸額ニ依ル其俸額ハ奉職滿十五年ニシテ俸給年額ノ四分一即チ二百四十分ノ六十トシ爾後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿三十

五年ニ至リ二百四十分ノ八十即チ俸給ノ三分一ニ至ツテ止ム但非職中退官スル者ト雖モ恩給ハ其在職俸給ノ年額ニ照シテ之ヲ支給ス

第二條ノ第二項幷ニ第三條第四條ニ掲クル所ノ十五年未滿ノ奉職者ニ恩給ヲ支給スルコトアルトキハ其給額ハ俸給年額二百四十分ノ六十ニ當ル額ヲ以テス

進級後一年未滿ニシテ退官シタル者ハ前官ノ俸給ニ依リ恩給ヲ支給ス但公務ニ起因スル傷痍疾病ノ爲メ退官シタル者ハ此限ニアラス

第六條　奉職滿十五年ニ超ル者ト雖モ年齡未タ六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ハ恩給ヲ支給セス

十七年四月廿五日第三十五號ヲ以テ本條中（恩給支給ノ際）ノ六字ヲ刪ル

第七條　奉職年數ノ計算ハ明治四年八月ヨリ起算ス其以後任官ノ者ハ其拜命ノ月ヨリ起算ス但年齡二十歲未滿ノ奉職年數ハ算入セス

明治四年八月以前ヨリ奉職シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス

第八條　武官ヨリ文官ニ轉シ若シクハ退官後再ヒ任官シタル者ハ前官後官ノ奉職年數ヲ通算ス但御用滯在中ノ年月及ヒ曾テ滿年賜金若クハ退官一時賜金ヲ受ケタル者ノ前官年數ハ算入セス

第九條　恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ爾後退官ノ節其俸額前官ヨリ少ナキトキハ仍ホ前官ノ俸額ニ依リ恩

給ヲ支給ス

第十條　勅奏任官奉職中既ニ恩給ヲ受クヘキ期ニ至リタル者及ヒ其退官恩給ヲ受クル者死去セシトキ又ハ其期ニ至ラスト雖モ公務ニ依リ死去セシトキハ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ其寡婦ニ扶助料トシテ死者生存中ノ恩給年額四分ノ二以内ヲ終身支給スルコトアル可シ寡婦ナケレハ其繼嗣ノ孤兒（男女幷ニ實子養子ヲ問ハス）滿二十歳ニ至ル迄之ヲ給スルコトアル可シ但寡婦ハ其本夫ノ在官中ニ入籍シタル者ニ限ル

判任官ハ奉職中既ニ恩給ヲ受クヘキ期ニ至リタル者ニシテ公務ニ依リ死去セシトキニ限リ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ本條ニ準スルコトアル可シ但其扶助料ハ寡婦ニ止マリテ孤兒父母祖父母兄弟姉妹ニ及ハス

第十一條　寡婦復籍若クハ再嫁シ又ハ死去シタルトキハ其扶助料ハ更ニ繼嗣ノ孤兒（二十歳未滿ノ者）ニ給ス

扶助料ヲ受クル孤兒既ニ嫁娶シ若クハ官廳ヘ奉職シ俸給ヲ受ケ又ハ諸官立學校ノ官費生徒ト爲リシトキハ其扶助料ヲ給セス

第十二條　扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受ケタル寡婦復籍若クハ再嫁シテ孤兒ナク尚ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキトキハ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二以内ヲ終身支給スルコトアルヘシ

第十三條　其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スルトキハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死沒若クハ其恩典ヲ失フコト

アレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給ス可シ但父及ヒ祖父ハ年齢五十歳以上其未滿ハ癈疾又ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者孰レモ本人死沒ノ際年齢五十歳以上ニシテ其戸籍ニ在リシ者ニ限ル

第十四條　扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳未滿又ハ二十歳以上ト雖モ癈疾不具ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ救育スルノ親族ナキ者ハ其情狀ニヨリ特旨ヲ以テ寡婦ニ相當セル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル額ヲ一時限リ支給スルコトアル可シ

第十五條　恩給ハ在官者退官ノ翌月ヨリ支給ス扶助料ハ恩給ヲ受ケ又ハ受ク可キ者死去ノ翌月ヨリ支給ス其轉給スル者モ亦同シ

第十六條　恩給及ヒ扶助料ノ給否ハ本屬長官若クハ其所管地方長官ノ証明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ太政大臣之ヲ裁定ス

恩給及ヒ扶助料ノ給與ニ關シ若シ穩當ナラサル廉アルコトヲ覺知シタル者ハ之ヲ其本屬長官若クハ地方長官ニ請願シ而シテ尚ホ穩當ノ指令ヲ得サルトキハ本人ヨリ直ニ太政官恩給局ニ請願スルコトヲ得但之ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ許サス

第十七條　恩給若クハ扶助料ヲ給スル本人ニハ太政官ヨリ其証書ヲ下付ス

第十八條　恩給ヲ受ケル者公權ヲ剝奪セラレタルトキ

ハ全ク之ヲ止メ又左ノ各項ニ當ルトキハ其時間ノミ之レヲ停ム

一　公權ヲ停止セラレタル時

二　再ヒ官ニ就キ俸給ヲ受クル時

三　事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時

四　政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第十九條　扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラルヽトキ又ハ第十八條ノ第三項若クハ第四項ニ該ルトキハ之ヲ止ム

第二十條　恩給ヲ支給ス可キ退官者アルトキハ本屬長官ハ本人ノ履歴書其傷痍疾病ニ起因スルモノハ其証書ヲ具シ且事實ヲ証明シテ之ヲ太政官ヘ進達シ以テ恩給ノ下付ヲ請求ス可シ

第二十一條　扶助料ヲ願ハントスル者ハ本人主名ヲ以テ親族二名（後見人アレハ其後見人ヲ加フ）親族ナキトキハ同鄉ノ戸主二名連署セシ願書ニ其戸籍ノ寫（恩給若クハ扶助料給與ノ証書アル者ハ其証書）又公務ニ依リ死亡セル者ハ其原因症候等照査ニ供ス可キ証據書ヲ添ヘ之ヲ所管地方廳ニ出願スヘシ地方長官ハ其事實ヲ証明シテ之ヲ太政官ニ進達シ以テ扶助料ノ下付ヲ請求スヘシ但一個年經過ノ後出願スル者ハ之ヲ受理セス

第二十二條　恩給若クハ扶助料ノ支給ヲ止ムルトキハ恩給局ヨリ所管地方廳ニ達シ二週日以内ニ其給與ノ証書ヲ收メシム又ハ恩給若クハ扶助料ヲ受クル者死去又ハ除籍シ扶助料ヲ繼受スル者ナキトキハ遺族若クハ親族ヨリ其死亡又ハ除籍ノ証書ヲ添ヘ一個月以

内ニ之ヲ所管地方廳ニ届出テ該長官ハ事由ヲ具シ其証書ト共ニ之ヲ恩給局ニ進達ス可シ

第二十三條　恩給及ヒ扶助料ノ金額ハ毎年六月十二月ニ於テ其前半年分（半年ニ滿サルモノハ月ヲ以テ計算ス）ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經由シテ之ヲ交付ス

第二十四條　恩給若クハ扶助料ノ金額ヲ受領セントスル者ハ其証書及ヒ本人生存証書ヲ表証シ別ニ受領証書ヲ差出ス可シ

第二十五條　恩給若クハ扶助料ヲ受クル者ハ其金額受領ノ地ヲ轉セントスルトキハ金額交付期月ノ三個月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ其期ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第二十六條　恩給幷ニ扶助料ハ一個年以上其受領ヲ請求セサルトキハ其時間ノ金額ヲ支給ス

第二十七條　恩給幷ニ扶助料ニ關スル願書ハ郡區長戸長証書ハ戸長ノ奥印ヲ要ス

第二十八條　盗難若クハ水火災等ニテ恩給若クハ扶助料給與ノ証書ヲ失ヒタルトキハ速ニ所管地方廳ヲ經テ恩給局ニ其旨屆出可シ

第二十九條　官吏滿五年以上奉職ノ者十一年未滿ニシテ退官セシ時ハ現俸給三ヶ月分ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ同上ノ者ニハ現俸給四ヶ月分ヲ給ス但恩給ヲ受クル者幷ニ自己ノ便宜ニヨリ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス

十七年四月廿五日第三十五号ヲ以本條及第三十條追加

第三十條　官吏在官中死去ノ者ハ現俸給三ヶ月分ヲ給ス

○官吏恩給令附則（太政官達第十五号　明治十八年三月廿七日）

第一條　本令第二條第三條及第四條ニ該ル者退官スルトキハ同時ニ其恩給願書（第一書式）及証據書類ヲ本屬長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ係ル者ハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル長官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條　本令第十條第十一條第十二條第十三條及第十四條ニ該ル者ハ其扶助料願書（第二書式）及証據書類ヲ本籍地方長官ニ差出スヘシ

第三條　恩給願書若クハ扶助料願書ヲ受領セシ長官ハ査覈ノ上輒給願書ヲ除クノ外其計算書（第三書式）ヲ製シ本

令第二十條ニ據リ該書類ヲ太政官ニ進達スヘシ

第四條　恩給願書ニ添フヘキ証據書類ハ左ノ如シ

一　履歴書

二　戸籍寫

三　診斷書（負傷若クハ病者ニ要ス）

四　見證証書（第四書式）（公務ニ依リ負傷シタル者ニ要ス）

第五條　本令第四條ニ掲クル最下金額十分ノ七迄ノ增給差等ハ左ノ如シ

一　二肢ヲ亡シ或ハ兩眼ヲ盲スル者　十分ノ七

二　前項ニ等シキ傷痍或ハ疾病ヲ受ケシ者十分ノ六

三　一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フ者十分ノ五

四　前項ニ等シキ傷痍或ハ疾病ヲ受ケシ者十分ノ四

五　全ク一肢ノ用ヲ失フ者　十分ノ三

六　前項ニ等シキ傷痍或ハ疾病ヲ受ケシ者十分ノ二

第六條　本令第三條ニ掲クル公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負フトハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ失フニ等シキ者ニ限ル

第七條　公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ負傷シ恩給ヲ受ケタル者仍ホ重症ニ趨キシトキ左ノ期限内ニ出願スレハ査覈ノ上更ニ増加恩給ヲ下賜スヘシ

一　一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者　ハ二箇年

二　一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者及之ニ等シキ者ハ三箇年

第八條　前條ニ當該シ増加恩給ヲ願ハントスル者ハ其願書第五書式ニ診斷書及恩給証書ヲ添ヘ之ヲ本籍地方長

官ニ差出スヘシ

第九條　年齢六十歳未滿ト雖モ滿十五年以上奉職シ服務紀律違犯ノ故ニ非スシテ諭旨退官ノ者若クハ非職滿期免官ノ者ハ本令第二條廢官廢廳ノ例ニ依ル

第十條　官吏滿五年以上奉職ノ後本官ヲ免シ直ニ御用掛或ハ准官吏等ニ採用ノ者ハ其際恩給或ハ本令第二十九條ノ一時賜金ヲ給セス其御用掛或ハ准官吏退職ノトキニ於テ前官ニ對スル恩給若クハ一時賜金ヲ下賜ス但御用掛或ハ准官吏奉職中自已ノ便宜ニ依リ其職ヲ辭スル者及服務紀律ニ違ヒ諭旨退職ノ者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免職者ハ恩給或ハ一時賜金支給ノ限ニ在ラス

第十一條　奉職年數ハ月ヲ以テ計算スヘシ但退官同月

内ニ再任セシ者ハ其月ヲ二箇月ニ算スルヲ得ス

第十二條　非職中ノ年月ハ奉職年數ニ算入スヘシ但官吏非職條例第七條ニ該ル者ニシテ非職俸ヲ受ケサルノ年月ハ之ヲ除算ス

第十三條　本令第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額ヲ云フ

第十四條　本令第二十九條及第三十條ノ一時賜金ハ非職中退官或ハ死去スル者ト雖モ其本俸ノ額ニ照シテ之ヲ支給ス

第十五條　自已ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ服務紀律ニ違ヒ諭旨退官ノ者及懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官ノ者再ヒ任官スルコトアルモ其前官年數ハ之ヲ通算セス

第十六條　公務ニ依リ死去ノ者アルトキハ其事實ヲ保証シタル書面（見証人アレハ及履歴書又恩給ヲ受クルノ其証書ヲ添ヘ）期ニ達シタル者死去セシトキハ其履歴書ヲ本屬長官ヨリ遺族ニ下付スヘシ

第十七條　扶助料願書ニ添フヘキ証據書類ハ左ノ如シ

一　死者履歴書（在官中死去シタルトキニ要ス）

二　戸籍寫

三　恩給證書（轉給ノトキニ要ス）

四　醫師ノ死亡屆書若クハ檢案書（公務ニ依リ死去シタルトキニ要ス）

五　本屬長官保証書（公務ニ依リ死去シタルトキニ要ス）

第十八條　本令第十三條及第十四條ニ掲クル癈疾又ハ不具ノ者扶助料ヲ願ハントスルトキハ前條書類ノ外

仍ホ其診斷書ヲ添フヘシ

第十九條　本令第十條ニ掲クル恩給年額四分ノ二以内ノ差等ハ公務ニ依リ死去セシ者ノ寡婦ニハ四分ノ二其他ノ寡婦ニハ四分ノ一トス

第二十條　本令第十條ニ掲クル恩給ヲ受クヘキ期ニ至ルトキハ奉職滿十五年以上ヲ云フ

第二十一條　扶助料ヲ受ケタル寡婦其支給ヲ止メラルヽトキハ轉シテ之ヲ繼嗣ノ孤兒ニ給ス

第二十二條　扶助料ヲ受ケタル寡婦死去シテ孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受ケタル孤兒死去シ仍ホ其亡夫或ハ亡父ノ父母又ハ祖父母アルトキハ本令第十二條ノ例ニ依ル

第二十三條　本令第十三條ニ掲クル母及祖母癈疾又ハ

不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ之ヲ奉養スル者ナキトキハ同條但書父及祖父ノ例ニ依ル

第二十四條　恩給或ハ扶助料ノ出願ヲ許可セシトキ恩給許可令ハ本屬長官ヲ經テ直ニ本人ニ下付シ扶助料許可令ハ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス

恩給証書ハ總テ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス

第二十五條　本令第十六條第二項ニ掲クル請願ノ期限ハ恩給証書受領ノ日ヨリ三箇月トス其期限ヲ過ルモノハ受理セス

第二十六條　本籍地方廳ニ於テ本令第二十五條ノ出願ヲ許可シタルトキハ直ニ大藏省ニ屆出テ且本人移住

ノ地方廳ニ通牒スヘシ

第二十七條　恩給ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルトキハ本令第十八條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者仝上ノトキハ本令第十九條ニ準ス

第二十八條　恩給若クハ扶助料ヲ受ケタル者本令第十一條第二項第十八條第三項第四項ニ該ルトキハ其本籍地方廳ヨリ直ニ恩給局ニ屆出ツヘシ

本令第十八條ニ掲クル再ヒ官ニ就キ俸給ヲ受クルトハ准官吏以上ヲ云フ

第二十九條　恩給若クハ扶助料ヲ下賜シ又ハ其支給ヲ若クハ停メタル時ハ恩給局ヨリ之ヲ大藏省及會計檢査院ニ通牒スヘシ

官吏恩給令附則諸書式

第一書式　甲

恩給願書

某儀

何年何月間奉職罷在候處(年齢六十歳以上ノ老體ト相成退官出願候ニ付御許可ノ上ハ)(何々ニ何々)相當ノ恩給下賜度証據書類相添此段奉願候也

年月日　　官氏名印

本属長官宛

△廢官廢廳免官ノ者ハ元ノ官名廳名ヲ記スヘシ

第一書式乙

恩給願書

何年何月間奉職罷在候處何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ(何ノ部ニ何ノ傷病ヲ負ヒ)(何々爾來治療仕候得共遂ニ(何々)(何々)退官相願候ニ付御許可ノ上ハ(相當ノ恩給)(相當ノ恩給幷ニ增加恩給)下賜度証據書類相添此段奉願候也

年月日　　某　儀

官氏名印

本屬長官宛

第二書式甲

扶助料願書

明治何年何月ニリ恩給下賜相成居候處(何年何月間奉職罷在候處)何年何月何日死亡仕候ニ付某ヘ相當ノ扶助料下賜度証據書類相添此段奉願候也

夫(父)氏名儀

何府(縣)國郡區)町(村)番地
何族(平民)
故何某寡婦(孤兒)

年月日　　氏名印

同
親族(後見人)

氏名印

同

親族　氏名印

地方長官宛

戸長　氏名印

郡(區)長　氏名印

第二書式乙

扶助料願書

夫(父)官某儀

何年何月間奉職罷在候處何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ(何ノ部ニ何ノ傷痍ヲ負ヒ)何年何月何日死亡仕候就テハ某ヘ相當ノ扶助料下賜度証據書類相添此段奉願候也

何府(縣)郡(區)町(村)番地

何族(平民)

故何某寡婦(孤兒)　氏名印

年月日

同

親族(後見人)　氏名印

同

親族

氏名印

地方長官宛

戸長　氏名印

郡(區)長　氏名印

第二書式 丙

扶助料願書

故官氏名寡婦　某儀

明治何年何月ヨリ扶助料下賜相成居候處何年何月何日(復籍)(再婚)(何々)仕候ニ付更ニ某ヘ扶助料轉給相成度證據書類相添此段奉願候也

何府(縣)國郡(區)町(村)番地
故何某孤兒　氏名

同
親族(後見人)　氏名印

同
親族　氏名印

地方長官宛

戸長　氏名印

郡(區)長　氏　名　印

第三書式

恩給計算書　官　氏名　明治何年何月何日生　何年何月何ヶ月

明治四年八月以前ノ任官ナレハ四年八月ノ官ヲ茲ニ記スヲ

何年	何年	何年	何年	何年	何年		
何月	何月	何月	何月	何月	何月		
何日	何日	何日	何日	何日	何日		
退官	任何官月俸若干圓	任何官月俸若干圓	任何官	退官	任何官		
何年何箇月				何年何箇月			
通計何年何箇月							

寡婦孤兒扶助料計算書ナレ

納何年(前官)(現官)俸給二百四拾分ノ若干

此年額若干圓

ハ本額四分ノ二若クハ一此年額若干圓

明治何年何月　何官廳　取調主任　官　氏　名印

第四書式

見認ノ實況及其理由ヲ極テ詳悉スルヲ要ス

見證証書

右明治何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痍ヲ負ヒ候ヲ某何ノ際見認候也

官　氏　名

年月日　見証人　氏　名　印　属籍職業

明治何年何月何年何ヶ月

同
同
同
同

第五書式

増加恩給願書

某儀

何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痍ヲ負ヒ候ニ付何年何月何日退官御許可ノ上恩給下賜ノ處該傷痍漸次重症ニ變シ(何々)候ニ付増加額(下賜)(變更)相成候樣御詮議ヲ被遂度証據書類相添此段奉願候也

何府(縣)國郡(區)町(村)番地
何族
元何官
氏名印

年月日

地方長官宛

戸長
氏名印

郡(區)長
氏名印

○官吏恩給例第三十條消滅 大藏省通牒乾第二四四號 明治二十年二月十五日

客年勅令第六號高等官官等俸給令及同第三十六號判任官官等俸給令發布相成候ニ付テハ即官吏恩給令第三十條ハ消滅ニ屬セシ段今般内閣裁定ノ趣モ有之然ルニ俸

給令發布後猶前第三十條ニ據リ舊官制非職死亡者ニ支給ノ分有之右ハ俸給令ニ依リ御廳經費ノ内ヨリ支給之事ニ更正ヲ要シ候條別紙手續書ニ依リ授受ノ上先ニ恩給令ニ依リ支給ノ分ハ誤拂ノ理由ヲ以相當科目ヘ速ニ還納方御取計可有之尤俸給令ノ死亡賜金ハ遺族ニ給ストアレ𪜈若シ遺族ナキ場合ニ於テハ其親戚等ノ葬祭者ニ交付シ妨ナキ義ト御承知可有之御通知旁此段及御照會候也（別紙手續書略ス）

追テ舊官制奏任官以上死亡賜金計算方ハ其月俸十二ケ月分ヲ積算シ其三分ノ一ヲ支給スル義ト御承知可有之候也

旅費

○內國旅費規則 閣令第十四號 明治十九年六月八日

第一條　內國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦內ヲ旅行スルトキ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第二條　內國旅費ハ各官等ニ依リ分テ六等トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ汽車賃汽船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ管內外ニ區別シ之ヲ支給ス

第三條　汽車賃ハ汽車旅行、汽船賃ハ汽船旅行、車馬賃ハ陸路旅行、日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條　官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入傭入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行ノ性質ニ依リ特ニ舟車

馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ本令ノ汽車賃汽船賃及車馬賃ヲ支給セス

第五條　汽車賃ハ哩數、汽船賃ハ海里數、車馬賃ハ里數、日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ

外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セス

第六條　赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管內ヲ通過スルトキハ其路程ハ管外ニ準シ又管內巡回ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管內ニ準スヘシ

第七條　日當ハ陸路六十里未滿、汽車十哩未滿及汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

第八條　汽車賃汽船賃及車馬賃ハ其種類每ニ經過セシ

路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ但其一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第九條　旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度每ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但汽車賃及汽船賃ハ會計年度ニ係ハラス汽車汽船ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ

第十條　檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡視スルキハ車馬賃ヲ給セス日當額ニ三割ヲ增給スヘシ

第十一條　赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本官相當ノ車馬賃汽車賃若クハ汽船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十二條　廢官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支

給スヘシ

第十三條　新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條　旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條　旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給スヘシ

第十六條　前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ汽車旅行ハ一日二百哩詰、汽船旅行ハ一日百海里詰、陸路旅行ハ一日十二里詰トス

但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ

十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條　各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額ヲ定メ月額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十八條　各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

第十九條　府知事縣令ハ三等旅費郡區長ハ五等旅費ヲ支給スヘシ

第二十條　陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムヘシ

第二十一條　神官及備員其他本令ニ明文ナキモノハ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

二十年三月閣令第六號ヲ以テ第二十條中武官ノ下ニ文官ノ二字ヲ加フ

別表

旅費額

等級		汽車賃	汽船賃	管外車馬賃	管內車馬賃	管外日當	管內日當
		一哩每二	一海里每二	一里每二	一里每二	一日每二	一日每二
一等	親任官	金拾五錢	金拾五錢	金五拾六錢	金三拾貳錢	金四圓	金三圓
二等	勅任一等官二等官	金拾貳錢	金拾貳錢	金四拾貳錢	金貳拾四錢	金三圓	金貳圓
三等	奏任一等官二等官三等官四等官	金九錢	金九錢	金貳拾八錢	金拾六錢	金貳圓	金壹圓六拾錢
四等	奏任五等官六等官試補	金九錢	金九錢	金貳拾貳錢	金拾貳錢	金壹圓四拾錢	金壹圓
五等	判任四等以上	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金七拾錢
六等	判任五等以下	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金五拾錢

○內國旅費規則附則（閣令第三十四號 明治十九年十二月廿三日）

第一條　北海道廳沖繩縣、東京府小笠原島廳、長崎縣對馬島廳、鹿兒島縣大島々廳所轄地及東京府管轄伊豆七島內ハ管內巡回ト雖モ管外旅行ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二條　北海道廳沖繩縣管轄內ハ車馬賃ニ限リ管外額ノ五割以內ヲ增給スルコトヲ得

但北海道廳管轄內ハ每年十一月ヨリ翌年三月マテ五ケ月間車馬賃ニ限リ管外額ノ二倍以內ヲ增給スルコトヲ得

第三條　各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通知スヘシ

○內國旅費規則心得（大藏省訓令第二十三號 明治十九年六月十二日）

一府縣大小書記官ハ三等旅費收稅長ハ四等旅費屬官判任御用掛ハ月俸四十圓以上五等旅費月俸四十圓未滿

六等旅費ヲ給スヘシ

一北海道廳長官府知事縣令ハ旅行ヲ命スルトキ豫メ事務ノ便宜路程ノ近便等ヲ量リ經過ノ路筋旅行日數ヲ定ムヘシ

一海湖河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ

一非常急行上司隨行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬賃ヲ以テ支辨シ難キト見認ルトキハ北海道廳長官府知事縣令ノ見込ヲ以テ隨時實費拂ヲ許可スヘシ

一海里ノ距離ハ明治五年第百三十號布告ニ據ルヘシ

一赴任旅費ハ在官者ニシテ在勤地ヲ轉シタル時ニ限リ之ヲ支給スヘシ

一新ニ任用ノ者ハ在勤地マテ規則第十三條ノ旅費ヲ支給スヘシ

一兼官者ハ兼官ノ用務ニ據リ旅行スルトキハ兼官相當ノ旅費ヲ給シ本官兼官ノ用務ヲ兼ルトキハ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

但兼官無給ナルトキ其旅費額ハ本官ノ給額ニ依ル

一從前特例ヲ以テ旅費ノ支給法ヲ定メタルモノト雖モ總テ閣令第十四號內國旅費規則ニ據ルヘシ

○內國旅費規則支給心得

大藏省訓令第二十八號 明治十九年六月二十六日

一北海道廳集治監典獄ハ內國旅費規則四等旅費ヲ給ス

一內國稅徵收費支辨ニ係ル府縣等外出仕等外御用掛及傭員ノ旅費額ハ左表ニ據ル

汽車賃	汽船賃	管外車馬賃	管內車馬賃	管外日當	管內日當

一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五十錢	金三十錢

一北海道廳府縣ノ判任官幷ニ準判任官（新官制ニ據リ官等ヲ定メサルモノ）ハ屬官御用掛ノ外ト雖ヒ總テ當省訓令第二十三號第一項ニ據リテ旅費ヲ給ス但地方稅支辨ノ官吏ト雖ヒ國庫ヨリ旅費ヲ給スルトキ亦同シ

一支給上新舊旅費規則相跨リタル場合ニ於テハ新規則施行期日後直ニ到着セシ御用地ヲ以テ打切リ又巡廻中ノ者ハ該期日ヲ押ヘ新舊支給方ヲ區分スヘシ

○警察官吏其他內國旅費概則（內務省令第十一號 明治十九年六月二十六日）

第一條　警視警部長警部警部補ノ旅費ハ閣令第十四號內國旅費規則ニ據リ支給スヘシ但警部長ハ四等旅費府縣ノ警部月俸四拾圓以上ハ五等旅費月俸四拾圓未滿及警部補ハ六等旅費ヲ支給スルモノトス

第二條　警視及警部警部補ノ持區內ヲ巡回スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

警視日當　金壹圓貳拾錢

警部警部補日當　金八拾錢

第一項　十二里以上ノ巡廻ハ其日數ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項　六里以上十二里未滿ノ巡廻ハ其日數ニ應シ日當半額ヲ支給スヘシ

第三項　六里以上ニ涉ル巡廻中滯在スルトキハ其滯在ノ日數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第四項　六里未滿ノ巡廻ハ日當ヲ給セス但宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第五項　官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ派出シ又ハ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ日數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ但里程六里未滿ノトキハ第四項ニ依ル

第六項　水上警察署ノ區內ハ里數ニ拘ハラス一泊毎ニ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第三條　巡査ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項　巡査ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項　召募旅費及免職歸國旅費（給助例施行ノ期迄）ハ一里毎ニ金五錢ヲ支給スヘシ但里程三里未滿ハ給與セス

第三項　免職歸國旅費ハ奉職期限ニ至ラサル者ニハ支給セスト雖モ職務上重傷ヲ受ケ又ハ官ノ都合ニヨリ免職スルモノハ支給スヘシ

第四項　職務上ニ死シ及奉職中病死スル者ハ奉職期限ニ拘ハラス歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ支給スヘシ

第四條　巡査持區內ヲ巡廻スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

巡査日當　金三拾錢

第一項　巡廻中宿泊スルトキハ其泊數ニ應シ日當

ヲ支給スヘシ

第二項　至急ノ派出ヲ要シ特ニ舟車馬ノ備入ヲ許可シタルトキハ該費費ヲ支拂ヘシ但此場合ニ於テモ日當ハ前項ニ依ル

第五條　集治監及仮留監典獄副典獄書記看守長御用掛ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項　典獄ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費副典獄ハ同五等旅費ヲ支給スヘシ

第二項　書記看守長判任御用掛ハ月俸四拾圓以上ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ五等旅費月俸四拾圓未滿ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第六條　官社神官ノ旅費祭主ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ三等旅費宮司權宮司ハ同五等旅費禰宜主典宮

掌ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第七條　看守等外吏等外御用掛雇員等ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項　看守等外吏等外御用掛及雇員ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項　看守ノ召募旅費及免職歸國旅費ハ第三條ノ第二項第三項第四項ニ依ルヘシ

第三項　押丁給仕小使職工等ハ乙號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第四項　華族及從六位勳六等以上ノ士民ヲ公務ニテ旅行セシムルトキハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費其他有位帶勳ノ士民同上ノ節ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第五項　一般ノ人民同上ノ節ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八條　支給ノ方法ハ第二條及第三條ノ第二項第三項第四項第四條及第七條ノ第二項ヲ除クノ外總テ閣令第十四號內國旅費規則ニ依ルヘシ

第九條　地方ノ情況ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

甲號表

汽車賃	汽船賃	管外車馬賃	管內車馬賃	管外日當	管內日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五拾錢	金三拾錢

乙號表

汽車賃	汽船賃	陸路雜費	日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ
金三錢	金三錢	金四錢	金三拾錢

○北海道廳警官及神官旅費支給方　內務省訓令第九號明治十九年六月廿六日

其廳警官吏及神官ノ旅費ハ當省令第十一號ニ據リ支給スヘシ

○警察官旅費支給方　內務書記官ヨリ各府縣ヘ通牒明治十九年八月二十一日

今般地方官々制公布セラレ候ニ付テハ當省令第十一號警察官吏其他內國旅費概則第一條警部長及警部警部補ノ旅費ハ其官等相當ノ額ヲ支給セラルヘキ節ニ有之候條此段及御通知候也

○郡區書記旅費支給方　內務省令第十五號明治十九年九月六日

郡區書記ノ旅費ハ閣令第十四號內國旅費規則ニ據リ六

等旅費ヲ支給スヘシ

但地方ノ情況ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

○一時雇ノ者旅費支給方（内務省訓令第九號 明治二十年二月十七日）

徴兵檢査ノ節醫師等一時限リ雇入ノ者解雇スルトキハ該地ヨリ最初採用セシ節ノ本人居住地迄旅費ヲ支給スヘシ

○集治監假留監典獄以下旅費（内務省訓令第十號 明治二十年二月十八日）

集治監及假留監官制被定候ニ付テハ典獄副典獄書記看守長監獄醫ノ旅費ハ明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ官等相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

○旅費支給上新舊區分方（大藏省通牒 明治十九年六月廿六日）

今般閣令第十四號ヲ以テ内國旅費規則新定セラレ候ニ付支給上新舊旅費規則相跨リタル場合ニ於テハ新規則施行期日後直ニ到着セシ御用地ヲ以テ打切リ又巡回中ノ者ハ該期日ヲ押ヘ新舊支給方區分可相成此段及御通達候也

○租稅檢査員旅費月額支給方（大藏省訓令第三十六號 明治十九年八月二日）

租稅檢査員旅費ノ儀八月一日以後旅費規則第十七條ニ據リ檢査ニ從事中左ノ月額ヲ以テ支給スヘシ

一租稅檢査員旅費月額ハ府縣廳下ノ檢査區内金拾五圓廳下外ノ檢査區内金拾九圓五拾錢トス

一檢査員本廳ヨリ檢査區ヘ往復シ及ヒ甲乙轉區スル途中旅費ハ旅費規則第二條ニ依リ支給スヘシ

一旅費月額ハ檢査區着ノ月ハ其翌日ヨリ出發ノ月ハ其前日マテ本額三十分一ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シ支給スヘシ

一廳下ノ檢査區內ニ於テ檢査ニ從事セサルコトアルトキハ其日數ヲ除キ前項ニ依テ支給スヘシ

一府縣知事ハ大藏大臣ノ允可ヲ請フテ月額ヲ減スルコトヲ得

○傭員等旅費支給方（內務書記官ヨリ各局ヘ通達 明治十九年六月廿九日）

本省傭員等旅行セシムルトキハ當省令第拾壹號ニ依リ旅費支給可相成候此段及御通達候也

○雇外國人旅費概則（內務省中達 明治十九年九月十六日）

本省雇入外國人旅費概則（特約アルモノヲ除ク）別紙之通改正候條本年八月一日ヨリ施行スヘシ

〔別紙〕

甲號

雇外國人內國旅費概則

一雇外國人旅費支給方法ハ明治十九年閣令第十四號內國旅費規則ニ據リ月俸百圓以上ハ三等百圓未滿ハ四等ノ旅費ヲ支給ス

但特ニ條約アルモノハ此概則ニ依ルノ限リニアラス

乙號

現今雇入外國人旅費外手當

一雇外國人內地旅行ノ節實際ノ情況ニ依リ旅費ノ外旅行日數ニ應シ月俸百圓以上ハ一日金貳圓以內百圓未滿ハ一日金壹圓以內ノ額ヲ手當トシテ給スルヿアルヘシ

一本務廳所在外各地方ノ常務ニ服從スルトキハ其地到着ノ翌日ヨリ旅費及手當ヲ給セス尤モ其地ニ居家ノ設ケナキトキハ其情況ニ據リ一日金壹圓以內ノ額ヲ居家料トシテ支給ス

○鐵道線路哩數表（例哩ノ八十分一ヲチエーン百分一ヲリンクト云フ）

新橋横濱間	停車場	各驛距離			
		マイル	チエーン	リンク	
	新橋				計
	品川	三	一七	五二	七
	大森	二	五七	八九	一七
	河崎	四	一一	八九	七五
	鶴見	二	〇〇	一五	三〇
	神奈川	四	一六	八六	
	横濱	一	五〇	一四	

高崎横川間	停車場	各驛距離			
		マイル	チエーン	リンク	
	高崎				計
	安中	一	三七	四七	六
	磯部	五	〇六	四〇	一八
	松井田	四	二八	六六	〇〇
	横川	三	七一	四七	〇〇
		三	一六	〇〇	

敦賀大垣間	停車場	各驛距離			
		マイル	チエーン	リンク	
	敦賀				計
	金崎	〇	五八	一六	四九
	敦賀	四	〇八	四八	一九
	正田	六	三九	六六	一八
	柳瀨	二	七三	〇〇	
	中郷	二	五〇	二五	
	木本	一	七三	三五	
	井口	〇	五〇	九四	
	高月	六	五五	七四	
	長濱	七	五五	〇〇	
	春照	六	六二	三二	
	關原	〇	〇三	七〇	
	垂井	一	三四	九五	
	大垣	五	三四	三四	

神戸大津間

停車場	各驛距離 マイル	チエーン	リンク
神戸			
三住	一	六	一
西	四	〇	八
神	五	三	五
大	四	六	〇
吹	四	四	五
炎	四	二	〇
高	四	五	〇
山	四	四	三
向	四	〇	七
京	一	五	九
稻	三	二	六
山	三	一	二
大	一	二	〇
馬	〇	六	五
石	〇	〇	六
大津	五	三	〇
計十八	五八	三六	〇一

武豐木曾川間

停車場	各驛距離 マイル	チエーン	リンク
武			
半	三	五	三
龜	二	〇	上
緒	四	五	二
大	六	三	〇
熊	三	八	七
名	四	四	四
清	四	一	二
一	六	三	〇
木	四	一	七
曾ノ			
護			
豐田			
崎川			
高田			
屋洲			
宮川			
計十	四〇	二二	三七

上野赤羽間

停車場	各驛距離 マイル	チエーン	リンク
上野			
王子	三	七	二
赤羽	二	二	〇
計三	六	一三	五〇

赤羽前橋間

停車場	各驛距離 マイル	チエーン	リンク
赤羽			
浦和	六	二	〇
大宮	三	七	〇
上尾	五	七	〇
桶川	二	二	〇
鴻巣	五	九	〇
吹上	四	二	〇
熊谷	四	一	〇
深谷	五	一	〇
本庄	七	〇	〇
新町	四	三	〇
高崎	六	四	〇
前橋	五	一	〇
計十三	六一	七八	五〇

品川赤羽間

停車場	各驛距離 マイル	チエーン	リンク
品川			
目黑	一	六	〇
新宿	二	〇	〇
澁谷	二	三	〇
目白	二	一	〇
板橋	一	七	〇
赤羽		七	〇
計七	一二	七五	五〇

大宮宇都宮間

停車場	各驛距離 マイル	チエーン	リンク
大宮			
蓮田	五	四	〇
久喜	五	七	〇
栗橋	五	二	〇
古河	四	四	〇
小山	九	七	〇
石橋	九	八	〇
宇都宮	八	八	〇
計八	四九	〇七	〇〇

○内國各港間航路海里表

凡例

一表中ノ里數ハ何レモ皆指名各港間ノ直航路ヲ示ス故ニ若シ横濱ヨリ荻ノ濱ニ寄港シテ函館ニ至ル航路里程ヲ要スルトキハ其横濱荻ノ濱間ノモノト荻ノ濱函館間ノモノトヲ加ヘテ其寄港航路ノ里程ト知ルヘシ

一日本内海即チ瀬戸内ノ諸港ニ至ッテハ大漁船航路ト小漁船航路ト大ヒニ差違ヲ生スルモノ多シ故ニ其小漁船ノミノ定期航海アル各港間ハ小漁船航路ヲトリ大小漁船共ニ航海スル各港間ハ大漁船航路ヲトレリ

一横濱神戸間ノ某港ヨリ神戸馬關間ノ某港ニ至ル直航路ヲトルニハ其神戸迄ノ里數ト神戸ヨリ某港迄ノ里數ヲ加ヘ十六里ヲ減スヘシ

一神戸佐賀ノ關間ノ某港ヨリ佐賀ノ關鹿兒島間（九州東岸ノ分）ノ某港ニ至ル直航路ヲトルニハ其佐賀ノ關迄ノ里數ト佐賀ノ關ヨリ某港迄ノ里數ヲ加ヘ八里ヲ減スヘシ

一馬關以内ノ某港ヨリ同以外ノ某港ニ至ル直航路ヲトルニハ其以内以外ノ里程ヲ加フルノミニテ別ニ某數ヲ減スルニ及ハス

一神戸ヨリ馬關ヲ經テ長崎ニ至ル間ノ某港ヨリ長崎鹿兒島間ノ某港ニ至ル直航路ヲトルニハ其長崎迄ノ里數ト長崎ヨリ某港ニ至ル里數ヲ加ヘ二十里ヲ減スヘシ

佐賀關ヨリ鹿兒嶋ニ至ル航路

	關賀佐浦上	杵臼	伯佐	嶋細	津汕
嶋兒鹿	216	212	202	154	100
津汕	119	115	105	57	
嶋細	66	63	52		
伯佐	28	25			
杵臼	16				

神戸ヨリ土佐國清水ニ至ル航路

	戸神	嶋德	知高	崎須
佐土 水清	176	142	67	51
崎須	152	118	27	
知高	142	108		
嶋德	51			

神戸ヨリ馬關ニ至ル航路

	戸神	山岡	道尾	嶋廣	尻田三
關馬	240	182	143	100	40
尻田三	213	155	112	68	
嶋廣	155	104	50		
道尾	108	56			
山岡	65				

三津ヨリ馬關ニ至ル航路

	津三	嶋廣	關ノ上	尻田三
關馬	92	101	61	40
尻田三	59	70	29	
關ノ上	30	41		
嶋廣	35			

	津度多		
山岡	31	30	道ノ尾

長崎ヨリ鹿兒嶋ニ至ル航路

	長崎	原嶋	百貫	筑後若津 大川	鹿兒嶋
長崎		66	72	92	162
原嶋			12	28	172
百貫				35	178
筑後若津 大川					198
鹿兒嶋					

長崎ヨリ竹敷ニ至ル航路

	長崎	五島福江	全ノ浦玉	原嚴	竹敷
長崎		55	83	106	121
五島福江			38	96	108
全ノ浦玉				104	115
原嚴					36
竹敷					

鹿兒嶋ヨリ石垣ニ至ル航路

	鹿兒嶋	瀬名	覇那	八重山 石垣
鹿兒嶋		202	373	615
瀬名			176	413
覇那				242
八重山 石垣				

馬關ヨリ小樽ニ至ル航路

	馬關	境	敦賀	伏木	津江直	新潟	酒田	土崎	函館	小樽
馬關		203	327	463	453	496	547	587	689	822
境			146	289	284	322	372	413	529	661
敦賀				199	194	231	282	322	439	570
伏木					63	121	180	229	347	484
津江直						63	124	175	302	438
新潟							63	116	247	383
酒田								54	189	325
土崎									144	280
函館										221
小樽										

馬關ヨリ長崎ニ至ル航路

	馬關	博多	唐津	予呼	伊萬里	佐世保	長崎
馬關		60	72	71	99	121	142
博多			30	30	60	82	105
唐津				12	41	63	85
予呼					30	53	75
伊萬里						51	73
佐世保							46
長崎							